

JICA 関係者限定資料

フィリピン

フィリピン

任国情報

1998年

JICA LIBRARY

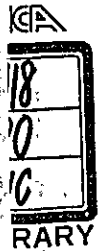


J 1147687 (6)

国際協力事業団

国際協力総合研修所

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成11年1月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1147687 [6]

目 次

I 概 況	i
II 生活事情	1
1. 食生活	1
2. 衣 料	8
3. 住 宅	11
4. 医 療	15
5. 教 育	18
6. 家庭の使用人	25
7. 交通事情	31
8. 通 信	35
9. マスコミ	40
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	42
11. その他のサービス	53
12. 観 光	55
13. 治安、緊急時の心得	64
14. 出入国手続および帰国手続	67
15. 私財の輸送、引き取り、購入	72
16. 社 交	76
17. 任国官公庁	80
18. 在外日本関係機関など	81
19. 地方都市	81

I 概況

表-1：フィリピン概況

正式国名	(和文) フィリピン共和国 (英文) Republic of the Philippines
独立年月日 旧宗主国	1946年7月4日 (但し独立記念日は6月12日) アメリカ合衆国
政体	立憲共和制
元首の名称	ジョセフ・エストラダ大統領 (1998年6月就任)
位置・面積	北緯4.20～21.30度 東経117～127度 300千平方キロメートル (注1)
首都	マニラ (Manila)
総人口	7,373万人 (1997年) (注2)
民族等	新マレイ系 (全人口の9割強) を中心に、少数民族として旧マレイ系、ネグリート族等、他に中国人、ヨーロッパ人とその混血。
公用語	ピリピノ語 (ピリピノ語の内容は制定中)、英語
宗教	ローマ・カトリック教 (83%)、プロテスタントなど (10%) イスラム教 (5%)
暦	<日本との時差> +1時間 <祝祭日> (1997年) (注3) 1月1日 新年 2月25日 自由の日 (民衆革命記念日) 3月27日 洗足聖木曜日 3月28日 聖金曜日 5月1日 メーデー 5月6日 Araw ng Kagitingan 6月12日 独立記念日 8月27日 英雄の日 9月11日 バランガイ記念日 9月21日 感謝祭 11月1日 万聖節 11月30日 ボニファシオ記念日 12月25日 クリスマス 12月30日 リサール記念日 12月31日 大晦日

出所 (注1) World Development Report 1996 The World Bank

(注2) 『THE WORLD 1998 世界各国経済情報ファイル』 (財) 世界経済情報サービス

(注3) The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

1. 国土の概要

アジア大陸の南東、台湾とボルネオ、スラウェシ島の中の西太平洋上、北緯4度20分から21度30分、東経117度から127度に位置する島嶼国家である。国土は大小合わせて7,100といわれる島々から成るが、面積が3平方キロメートル以上の島は500にも満たず、大多数は無名の小島、サンゴ礁島にすぎない。主要な島はルソン、ミンダナオの二大島、ビサヤ諸島の7島、それにミンドロ、パラワンの計11島で、これだけで全国土面積(30万平方キロメートル)の92.5%に達する。

ミンダナオ島中央高地南部には群島最高峰の活火山アポ山(2,954メートル)がそびえ、ルソン島南部からビコール半島にかけての火山地帯には二重カルデラで有名なタール湖、世界的なコニーデで知られるマヨン山(2,452メートル)がある。またルソン島のカガヤン谷、中部ルソン平野、ミンダナオ島のクタバト平野、ブキドノン台地、パナイ島のイロイロ平野、ネグロス島西海岸平野などが重要な農業地帯を形成する(以上数値は平凡社資料、1986)。

(参考文献)

『東南アジアを知る事典』 平凡社

2. 気候

熱帯モンスーン区に属し、年平均気温は27度である。気温の季節的变化はあまりないが、1日の気温差は10度以上になることもある。特に6月から10月、ルソン島には台風がしばしばある。台風は年間20回程度襲来するが、発生域に近いため十分発達しきっていないものもあり、必ずしも毎回激しい暴風雨を伴うものではない(以上数値はJICA資料、1991)。降雨の年間分布によって次の4つの気候帯に分類される。

- ・ 乾季(11～4月)と雨季(5～10月)が明確な地域……バギオ、マニラ、イロイロ
- ・ 明確な乾季はなく、11～1月に雨季がある地域……レガスピ、タクロバン
- ・ 乾季(1～4月)があり、明確な雨季のない地域……ツゲガラオ、セブ、ザンボアンガ
- ・ 乾季や雨季が明確でない地域……ダバオ

3. 人口

1997年の人口は7,373万人である(数値は世界経済情報サービス資料、1998)。

1995年の調査による主要都市人口は、首都マニラ約1000万人、ダバオ約85万人、セブ61万人、サンボアンガ44万人である(数値は共同通信社資料、1997)。

(参考文献)

『世界年鑑 WORLD YEARBOOK 1993-1997』 共同通信社

『THE WORLD 1998 世界各国経済情報ファイル』 (財)世界経済情報サービス

4. 略史

表-2：フィリピン略年表

年	出来事
1521年	マゼランがマクタン島に渡来、殺害される
1574年	スペインの植民地となる
1898年	米西講和条約で米国に割譲される
1935年	連邦政府樹立（総督制から高等弁務官制へ）
1942年	日本軍による完全制圧、占領統治開始（～1945年）
1946年7月	独立（初代大統領マヌエル・ロハス）
1950年	キリノ政権
1954年	マグサイサイ政権
1958年	ガルシア政権
1962年	マカパガル政権
1964年	マルコス政権
1968年	ミンダナオ独立運動 フィリピン共産党再建
1969年	新人民軍（NPA；共産武装勢力）の創設
1970年	第2次マルコス政権 モロ民族解放戦線（MNLF）の結成、政府軍との武力衝突（8月コタバト）
1972年	戒厳令布告（9月21日～81年1月17日）
1973年	民族民主戦線の発足
1981年	第3次マルコス政権
1983年8月	ベニグノ・アキノ暗殺、大統領批判が高まる
1986年2月	大統領選挙 2月革命決起 アキノ政権発足、マルコス大統領亡命
1987年2月	新憲法発効
5月	上下院選挙（7月27日成立）
8月	ホナサン中佐反乱事件
1989年9月	マルコス前大統領死去
12月	大規模クーデター、非常事態宣言（12月6日～90年6月）
1990年7月	中・北部ルソン大地震
10月	ノブレ元大佐反乱事件
1991年6月	ピナトゥボ火山噴火
11月	クラーク米空軍基地返還
1992年5月	大統領選挙、総選挙
6月	ラモス政権発足
12月	スービック米海軍基地返還
1993年10月	政府とMNLFが暫定停戦協定に調印
12月	政府軍と新人民軍（NPA）との間で17日間（クリスマス時期）の停戦が実現
1995年5月	上下両院、統一地方選挙実施

出所 【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会
【世界現勢】 1993 平凡社
【世界年鑑】 1993 共同通信社
【東南アジア調査会資料】 5月号 1995 東南アジア調査会
Country Report:Philippines 2nd quarter 1994 EIU

5. 民族など

フィリピン国立博物館が1974年に発行した言語・文化・人種分布地図によれば、フィリピン国民は134のグループに分けられる。先住民は中央アジアから渡来したと言われるネグリート族（現在2.5万人）で、その後全人口の9割強を占める南方モンゴロイドといわれる新マレイ系8グループ（セブアーノ、タガログ、イロカノ、ビコル、イロンゴ、ワライ、パンパンガ、パンガシナン）が流入し、多数民族を構成している。他にコーカソイドとモンゴロイド両方の形質をもつ旧マレイ系（ミンドロ島のマンヤン族、ルソン島のボントック、カリング、イフガオなどの部族）、中国人、ヨーロッパ人そしてメスティーソと呼ばれるスペイン人とマレイ系住民あるいは中国人との混血など1割弱が少数民族である。イスラム教徒のモロ族も、人種的にはタガログ、セブアーノと同じ新マレイ系である。

（参考文献）

【文化人類学事典】 1987 弘文堂
【東南アジアを知る事典】 平凡社
【新・東南アジアハンドブック】 1987 講談社
【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会

6. 言語

フィリピン諸語は、言語学的にはいずれもアウストロネシア（マラヨ・ポリネシア）語族に属し、マレー語、ジャワ語などと多くの共通点をもつ。その数は134種とも186種とも言われるが、主要なものだけでもマレー語系のセブアーノ語（全人口の24.4%）、タガログ語（23.8%）、イロカノ語（11.1%）、サマル・レイテのビサヤ語、ビコール語、パンパンガ語、パンガシナン語など8種類を数える。

1939年、タガログ語を基礎とする「ピリピノ語」を国語とすることが制定されたが、英語は公用語として広く使用されている。

（参考文献）

【東南アジアを知る事典】 平凡社
【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会
JICA入手資料

7. 宗教

スペイン統治時代の影響によりフィリピン住民のほとんどはキリスト教徒である。その内訳はローマ・カトリック（83%）、プロテスタント（9%）、フィリピン独立教会、イグレシア・ニ・クリストなどの宗派に分かれる。

残る5%がイスラム教徒で、南部を中心に存在している。その他各地域に古くから根ざしている信仰を持つ人たちもいる。

(参考文献)

【東南アジアを知る事典】 平凡社

【東南アジア要覧】 1992 東南アジア調査会

8. 文化

フィリピン社会の形成過程を反映し、文化は地域差に富んでいる。大別するとカトリック文化圏、イスラム文化圏、山岳少数民族文化圏に分けられる。一方、フィリピン群島全体に共通した文化もみられる。

早くから発達した文化様式の一つは口承と叙事詩であり、スペイン体制期にはこの伝統から韻文の宗教詩や物語詩が盛んになった。記述された形で文学が盛んになるのは19世紀末で、20世紀には米国支配によりその影響を大きく受けたが、1960年代からはピリピノ文学が受容され現在に至っている。

物語詩と並び古くから愛好されたのは演劇である。スペイン、米国の影響の下、大衆化を遂げた。その後は映画が大衆文化の最たるものとなった。

絵画芸術が始まるのは19世紀末のことで、20世紀中期にようやく現代絵画時代が幕開けした。彫刻もこの頃からである。スペイン文化の影響が色濃く残っているのが建築で、教会の多くは荘厳なバロック様式を伝えている。

音楽、舞踏の世界では、混血とキリスト教化が著しい地域では、スペイン様式を基に新しい様式を作り上げた。地方では伝統的なものが今も生き続けている。

(参考文献)

【東南アジアを知る事典】 平凡社

9. マス・メディア

表現と言論の自由は1987年の憲法で保証されている。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

(1) 新聞

主な英字紙として Manila Bulletin (26 万部)、Manila Chronicle (16 万 2 千部)、Philippine Daily Globe (4 万部)、Philippine Daily Inquirer (28 万 5 千部)、Manila Times (部数不詳) などがある他、Ang Pilipino Ngayon (28 万 6,452 部)、Bongga (12 万部)、Taliba (10 万部) などピリピノ語紙もある (数値は Europa Publications 資料、1995)。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

【世界年鑑】 1994 共同通信社

(2) 放送

1992 年現在、国内で推定 900 万人のラジオ受信者、290 万人のテレビ受信者がいる。ラジオ局は国営と民営を合わせて約 270 局、主要なテレビ局は国営テレビ「チャンネル 4」の他、民放テレビが 5 局ある (数値は Europa Publications 資料、1995)。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

【世界年鑑】 1995 共同通信社

表-3：経済指標 [フィリピン]

主要経済指標の 推移	年	(1994)	(1995)	(1996)
GDP (億ドル) (注1)		641	741	838
一人当たり GDP (ドル) (注1)		934	1,055	1,166
実質GDP成長率 (%) (注1)		4.4	4.8	5.7
消費者物価上昇率 (%) (注1)		9.1	8.1	8.4
失業率 (%) (注2)		8.4	8.4	8.7
貿易収支 (百万ドル)		-7,850	-8,944	-11,213
輸出額(fob)		13,483	17,447	20,531
輸入額(fob) (注3)		21,333	26,391	32,329
主要輸出入相手国 (注1)		輸出 (1996年)	米国 (33.9%)	
		輸入 (1996年)	日本 (21.8%)	
経常収支 (百万ドル) (注3)		-2,950	-3,297	N.A.
対外債務残高 (百万ドル) (注4)		37,079	37,778	41,875
債務返済比率 (%) (注4)		17.4	15.8	12.5
外貨準備高 (百万ドル) (注2)		7,121	7,775	11,745
通貨 (1998年9月24日)	通貨単位：フィリピン・ペソ (P) 1ドル=44.5900 Philippine Peso			
会計年度	1月1日～12月31日			

出所 (注1) 『THE WORLD 1998 世界各国経済情報ファイル』 (財) 世界経済情報サービス
(注2) IMF, International Financial Statistics, December. 1996
(注3) Bangko Sentral ng Pilipinas, Selected Philippine Economic Indicators, FEB. 1997
(注4) Country Report: Philippines 2rd quarter 1998 EIU

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

マニラにおいては食生活で困ることはほとんどない。日本と較べると魚には脂がなく、肉は硬いなどの違いはあるが、新鮮な魚介類が手に入り、果物も豊富である。

日本食品店は数軒あり、また日本料理店やその他外国料理の店がある。

日本製品でなくても、醤油（ゴールドスワン印のもの）、酢（白く濁ったもの）、米酢（ライスワイン、天保堂）、片栗粉（ポテトスターチ）など使えるものがあるので、いろいろ試してみるとよい。

食生活に関する注意事項として次のことがあげられる。

・飲み水はいちど煮沸したものを使うこと。氷を作る場合も同様である。赴任してすぐは、ホテルでも氷入り飲み物は多くとらないようにし、牛乳も一度沸かしてから飲むと安心である。

・時折、商品のジャム、ヨーグルト、マヨネーズなどの蓋を開ける人がおり、日付は新しくても中身が傷んでいる場合があるので気をつけること。日本食品を買う際は賞味期限を確認すること。

・牛乳は、冷蔵庫に入れておいても腐りやすいので注意すること。

・国産食品には添加物や色素が多く使われているので、同じ食品を長く使わない方がよい。

・海苔、かんぴょう、干しいたけ、茶、味噌などは冷蔵庫で保存する方がよい。大型の缶やシール容器などがあると便利である。

(2) 主な食料の出回り状況

食料品は豊富に出回っている。

(3) 食料の入手

<スーパーマーケット>

全般に乳製品が豊富で新鮮である。また、輸入品を含めて品数が多く、選択の余地がある。すきやき用肉やパック詰めの肉が豊富にあり、注文すれば部分カットやスライス、ひき肉にもしてくれる。荷物が多い時はボーイが車まで運んでくれる。その際、5～10 フィリピン・ペソ（以下ペソと略す）のチップが必要である。

ランドマーク (Makati Commercial Center : MCC 内)

備考：営業時間は 8:30～20:30。デパートの地下。邦人を含む外国人が最も多く利用している。日本食品のコーナーがあり、醤油、酢などは常時購入可能。野菜、魚、肉、ハム、ソーセージの他、日用品、工具などがある。

ルスタンス (MCC 内)

備考：営業時間は 9:00～20:00。最近改装され、品数は豊富。肉類も新鮮で買やすい。寿司や日本食の各コーナーがある。パンコーナーにはフィリピンのローカル菓子や中華風菓子もある。レジ前には輸入食品やアイスクリームなどが豊富に揃っている。

ユナイテッドスーパーマーケット

・グリーンベルト内店

備考：営業時間は9:00～20:00。品物は若干少ないが、レジが混まないのが急いでいる時に便利。店の外には果物、花、鮮魚の各専門店があり、刺し身、ウニ、寿司もある。

・フォルベス・パーク内店

備考：食料品店（サンティス）、銀行、美容院などが揃っている。

S.M. メガモールショッピングセンター

備考：マンダリン地区にある巨大ショッピングセンター。1階には食品部門があり、各階には専門店が多数入っている。

シューマート (S.M.の別館)

備考：営業時間は9:00～20:00。デパートの1階。食料品から日用品まで大抵のものが揃う。当地の人の利用が多い。

サウススーパーマーケット

・マガリヤネスビレッジ内店

備考：営業時間は8:30～19:30。ビレッジ内の住人には便利。小さいが、食料品、日用雑貨、文具、おもちゃなど日常生活に必要なものは揃っている。

・アラバン店

備考：営業時間は月～金曜日が9:00～19:30、土日、祭日が9:00～20:00。日常生活に必要なものはすべて揃う。敷地内にはロビンソン・デパート、マクドナルド、シェーキーズ（ピザ）、銀行などがあり便利。

ユニマートスーパーマーケット (グリーンヒルズ・ショッピングセンター内、オルティガス通り)

備考：営業時間は9:30～20:30。小さなデパートといった感じで、食料品、日用雑貨、食器、衣料品から電化製品まで購入可能。うどん、そば、醤油、わさび、マヨネーズなどもある。

<ローカルマーケット>

一般に衛生的とはいえないが、品物の鮮度と価格の安さは大きな魅力であり、上手に利用することを勧める。出かける時は、魚や肉の汁が飛んでもよい服と水に濡れてもよい靴を着用すること。

シーサイドマーケット (ロハス通り沿い)

備考：7:00～9:00頃に行くと、魚が新鮮で豊富。値段は少し高いが、刺し身を作る時にはここがよい。野菜、果物の品揃えは比較的少ない。毎週水曜日は近くの教会でお祭りがあり、通りいっぱいに出店が大変な混雑となる。暑い時期にはアイスボックスを持参するとよい。

カルティマール (パサイ)

備考：7:00頃がよい。野菜、果物、肉類、魚介類がある。鶏肉の部分カットや、ひき肉も注文できる。きゅうり、ごぼうなどの日本野菜が出ることもある。日本食品店があり、カリフォルニア米、豆腐がある。衣料、日用雑貨、植木やペットの店もある。

ABC Market (Guadalupe Edsa Highway 沿い)

備考：野菜、果物、肉類、魚介類、ローカル米、衣料、日用雑貨がある。

14:00～15:00 頃、新鮮な品が豊富。6:00 頃に魚の入荷がある。マカティから車で5～10分。

Farmer's Wet Market (ケソン・シティーのクバオ)

備考：シーサイドとカルティマールがひとつになったような広い敷地で、新鮮な魚、肉、野菜がある。魚の入荷は朝と昼で15:00 時前後が豊富。前述の3つのマーケットよりも安く、品数も豊富。

アランキマーケット (チャイナタウン)

備考：下町にあり、カレッサ (馬車) や車で混雑していて駐車場も少ない。通路が狭く混んでいるので慣れた人と行くこと。大豆、湯葉、高菜漬け、シューマイ、ザーサイ、中国菓子、クラゲ、ナマコなどがある。

ほかにも、トリパパ (Bel Air Village 内) や フルーツマーケット (San Andres Market, Malate)、エドサセントラルマーケット (16:00～17:00 頃、新鮮な魚が入手可) などがある。

チャイナタウンはグリーンヒルズにもあり、シューマイ、肉まんは上記のチャイナタウンの品よりも邦人の味覚に合う。ただし高菜漬け、ナマコ、クラゲなどはない。
<日本食品販売店>

日本食品店で一般的に入手できるものは次のとおりである。

麺類……そうめん、ひやむぎ、そば、うどん。

瓶詰……塩辛、福神漬、メンマ、なめたけ、江戸むらさき、ごはんですよ、おさななじみ、ザーサイ。

缶詰……みかん、桃、大和煮、ゆで小豆、サケ、シーチキン、なめこ、すきやき、みつ豆。

漬物……タクアン、しば漬け、きゅうりのキューちゃん、紅しょうが。

乾物・保存食類……とろろコンブ、わかめ、きくらげ、高野豆腐、かつおぶし、餅、梅干し、海苔、コンブ、かんぴょう、干しいたけ。

調味料……醤油、酢、みりん、ごま油、わさび、からし、とうがらし (七味)、そばつゆ、だしの素、ソース、焼き肉のタレ、ぼん酢、サラダ油、マヨネーズ、ドレッシング、ふりかけ、味噌。

インスタント食品……ラーメン、レトルトパックの赤飯や惣菜、すしの素、かまめしの素、カレー、みそ汁、しるこ。

菓子……せんべい、クッキー、飴、チョコレート、今川焼き、まんじゅう。

嗜好品……日本酒、ウイスキー (オールド、角瓶)、日本茶、麦茶、コーヒー。

その他……小豆、ゼラチン、小麦粉、パン粉、白玉粉、片栗粉、さらしあん。

店の冷蔵庫には、こんにゃく、糸こんにゃく、かまぼこ (赤、白)、はんぺん、イカ巻き、揚ボール、ちくわ、スモークサーモン、うなぎのかば焼き、明太子、つみれ、数の子、鮭、イクラ、シシャモ、筋子、ちりめんじゃこ、ウニ、油揚げなどがある。

なお、瓶詰や缶詰にはかなり古いものもあるので、製造年月日や賞味期限に注意すること。

神戸屋 (West Drive Arcade, MCC内 TEL:893-17-79)

備考：営業時間は9:30～20:30。きゅうり、枝豆、豆腐、焼き豆腐、厚揚げ、こんにゃく、今川焼きなどが店の入口で販売されている。店の奥には油揚げ、かまぼこ、イクラなど。その横には袋入りのごぼうなどがある。

さくら食品店 (123 Anson Arcade Bldg., Pasay Rd., Makati TEL:87-59-90)

備考：営業時間は、月～土曜日は9:00～19:00、日曜日は10:00～17:30。日本食品、箸、カミソリ、耳かき、ベープマット、蚊取線香、ふきんなど。日本の陶器もあるが非常に高価。カリフォルニア米と当地産のコシヒカリがある。

すずや (Pasong Tamo, Makati TEL:892-72-71)

備考：日本食品全般。入口近くには、うなぎ、さんま、アジなどの干物、納豆、油揚げ、さつま揚げ、日本製冷凍食品、草餅など。店の奥には漬物、豆腐などがある。

そのほか、カルティマールマーケットの中にも神戸屋、さくら食品店の支店 ASUKA、練り物の店はっちゃん、Annis Food Product (TEL:831-05-59) がある。

<行商および配達>

Estrella C. Shirasawa-Prop (TEL:58-86-75)

備考：数がまとまれば、月2回こんにゃくを配達してくれる。
板こんにゃく 25 ペソ、糸こんにゃく 35 ペソ。

Brother Food Products (TEL:532-1091,532-0996)

備考：製麺店。ギョウザの皮 1 キログラム 65 ペソ、太うどん、細うどん、きしめん各 1 キログラム 42 ペソで、15 キログラムから配達してくれる。

Batangas Beef (Mr. Quirino TEL:62-24-50)

備考：営業時間は 18:00～19:00。グループでまとめて注文すると便利。

鶏肉店 (カルティマールの中)

備考：鶏肉と卵を配達してくれる。

豆腐店 (TEL:50-77-93)

備考：豆腐を 10 丁以上から配達。新鮮でおいしい。木綿、絹ごしとも 1 丁 25 ペソ。厚揚げ 17.5 ペソ、油揚げ 30 ペソ。コンニャクもある。

バギオ野菜

備考：邦人女性の奉仕によるもの。各ビレッジとも、毎週水曜日早朝、バギオで作られる日本と同様の新鮮な野菜が手に入る。詳細は「フィリピンに学ぶ会 (Filipica)」の News letter を参照のこと。

その他、牛乳、ヨーグルト、パンなどの行商がビレッジ内を回っている。

<肉、その他の食料品店>

Aranez Prime Meat (Anson Arcade Paseo de Roxas TEL:816-03-85)

備考：営業は毎日 8:30～19:30。日本式飼育によるすきやき肉、用途別の各種スライスがある。日本語の価格表示があり便利。

サンティス (7431 Yakal St., Makati)

備考：営業は月～土の 9:00～18:00。輸入牛肉、豚肉、仔牛肉、ソーセージ、ベーコン、ハム、キングサーモン、チーズ、酢漬けのニシンなどを扱う、ヨーロッパスタイルの店。注文すればスライスも可。肉は軟らかく美味。高価ではあるが、ポロネギやエンダイヴなどのヨーロッパ野菜、輸入ワインや電気調理器も扱っている。フォルベス・パークのサン・アントニオ教会前にも支店がある。

ホテルマニラペニンシュラ

備考：地下にペーストリーショップがあり、ケーキ、パン、ハム、ソーセージを販売。高価ではあるが味はよい。

マンダリンオリエンタル、シャングリラ、インターコンチネンタル、シェラトンなど各ホテルにもペーストリーショップがある。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

概ね入手可能である。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

和包丁、出刃包丁、和食器（急須、茶托、箸置きなど）、しゃもじ、まきす、飯台など、日頃使用しているものを持参すればよい。水を煮沸してから使用するので、大きなステンレス製のやかんがあると便利である。これはマニラのデパートでも入手可能である。ステンレスポット、餅つき器も持参すると便利である。

日本仕様の電化製品のほとんどは、一部調整が必要であるが使用可能である。トランス（220、110 ボルト）を持参すること。220 ボルトと 110 ボルトのコンセントがあるが、間違えて使用すると電化製品の故障の元となる。プラグとコンセントに何ボルトか印をつけたり、220 ボルトのコンセントを塞ぐなどするとよい。

1-3 外食

(1) 飲食店

邦人がよく利用するレストラン（主に Makati 地区）は次のとおりである。

<Philippine>

店名	所在地・電話	備考
Josephine	892-65-95 (Makati)	毎日 20 時からフィリピンダンスショー
Zamboanga	525-88-28、525-76-38	毎日 20 時 30 分からダンスショー
Nandau	816-06-21、818-33-88 (Green Belt 店)	
Kamayan	88-36-04、815-14-63	
Ima	オルテガス店：634-50-70、 Makati 店：896-89-76	

<中華料理>

店名	所在地・電話	備考
Emperor Court (満福楼)	New World Hotel 内、811-68-88	平日昼の飲茶が自慢
Shang Palace (香宮)	Makati Shangri-La Hotel 内 813-88-88	雰囲気・サービスなど申し分ないが高値
Summer Palace (夏宮)	Edsa Plaza Hotel 内、633-88-88	味・雰囲気ともよい。 昼の飲茶が評判
Jade garden	892-23-19	

<日本料理>

店名	所在地、電話	備考
ふるさと	EDSA 店：896-07-31、893-07-32	豊富なメニューで手頃な値段 JICA 割引（1割）有り
	Ayala 店：892-51-20～23	雰囲気は良い、JICA 割引（1割）有り
	Roxas 店：525-10-05	
きくふじ	Passing Tamo 店：893-73-19 Traders Hotel 店：527-91-40	居酒屋、昼の定食はボリューム有り
New Tokyo	890-47-40	
稲穂亭	Edsa Plaza Hotel 内 633-88-88	店の雰囲気良し、値段は中の上、寿司、麺類が美味
築地	843-42-85	魚介類が新鮮（日本から直送）、高値
石亭	897-18-88、897-19-04	ラーメン各種。塩ラーメンがお勧め
新宿ラーメン	890-61-06、890-61-07	
少庵	818-23-59	
ZEN (膳)	892-68-51	セットメニューが豊富、手頃な値段
あずま屋	817-62-52	うどん・そばなど麺類が中心、定食もある
釜めしハウス	897-19-92	
相撲茶屋	844-53-10	ちゃんこ鍋が自慢
ラーメン亭	844-46-32	
山形屋	097-375-0007	手頃な値段の寿司屋
Miro	812-47-04	和風洋食、海老クリームコロッケは格別

<Asian>

店名	所在地・電話	備考
Kashmir	816-01-03	インド料理、かなり待たされるが味は良い
Kohinoor	1006 Pasay Road, Makati, M.M.、892-91-73	インド料理
Salathip	Makati Shangri-La Hotel 内、813-88-88	タイ料理
Flavours & Spices	815-30-29	タイ料理

<Korean>

店名	所在地・電話	備考
Korean Garden	895-54-43	
Korea house	895-21-13	
Masan Garden	815-06-03	
Kaya	895-04-04	キムチのテイク・アウトができる

<Western>

レストラン	所在地・電話	備考
Via Mare	832-12-37	スペイン料理
La Primavera	818-19-45	本格的イタリア料理、お勧めの店
Paparazzi	Edsa Plaza Hotel 内、 633-88-88	イタリア料理、雰囲気・味よし
Dads	アヤラセンター・クワッド内 892-8897	アメリカンスタイル、ビュッフェ ランチが人気
Schwarzwald	893-51-79	ドイツ料理、ソーセージが自慢
La Taverna	893-1025	イタリア料理
TGI Friday's	893-94-53	アヤラセンター・クワッド内の バー・レストラン、若者に大人気
L'Opera	844-32-83	自家製パスタが自慢のイタリア 料理
Old Swiss Inn	818-82-50	本格的スイス料理、フォンデュが 自慢
Island Cafe	Makati Shangri-la Hotel 内 813-88-88	ビュッフェスタイルのレストラン、 値段は高いが種類は豊富
Le Souffle	812-32-87	本格的フランス料理、雰囲気・味 ともに最高の店

(2) その他の飲食店

ランドマーク、シューマートなどの地下には、フードセンターと呼ばれるファーストフードの店が多数あり、日本風パンの店 Japan、ヨーロッパ風パンの店 The French などがある。また、ハンバーグ、たこ焼き、ピザ、肉まんといった邦人にもなじみのファーストフードが手軽に楽しめる。

マニラ市内には、マクドナルド、ケンタッキー、ウエンディーズ、ダンキンドーナツなどの店がいたるところにあり、昼時などは席を探すのに苦労するほどにぎわっている。

ピザ店としてピザハット（電話:87-50-86）、シェーキーズ（電話:85-44-24）などがある。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

12月～1月の朝晩肌寒い期間、および雨期には長袖の服、上着などが必要であるが、それ以外は日本の真夏の服装で対応できる。ただし、レストランや勤務先でのクーラー対策として、薄手のカーディガンやジャケットなどは必要である。

以前に比べれば国産衣料の品質は向上している。また、外国製のいわゆるブランド品も出回るようになった。

下着は、女性用は色数などは限られるがワコール社やトリンプ社の製品が出回っている。男性用もショーツタイプやトランクスタイプなどがあり、特に問題はない。

タオル、バスタオル、シーツなどは輸入品も豊富にあり、手頃な価格で良質なものが入手可能である。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

当地でも必要なものは十分入手できるが、生活が落ちつくまでの当座の衣類は持参した方が安心である。また、冬の日本に帰国する場合に備えて、冬物のセーター、コートなども1～2枚持参するとよい。

ベッドパッドはポリエステル製のものがほとんどである。コットン素材の品もあるが、特にキング、ダブルサイズは値段が高い。タオルケットや夏掛けは品切れのことが多いため、できれば持参した方がよい。

ガーゼや綿100%でできた乳児用衣類は少ない。通気性がよく肌触りのよいものを持参した方がよい。

婦人服は豊富に出回っているが、不安であれば外出着などは数枚持参した方がよい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

子供服の専門店が多く、外国製品も多く出回っている。靴や鞆も各種あり、価格は日本よりかなり安い。

バロンタガログという前身ごろに刺繍の入った独特の服がある。これはフィリピンにおける正装である。正式にはバナナやパイナップルの繊維で作るものであるが、これはかなり高価なため、化学繊維製を着ている邦人も多い。女性用のバロンタガログもある。

仕立て代が安い（技術は完璧ではない）ため、持参した布地で服をオーダーするのも楽しい。生地専門店もあり、色柄や素材も豊富である。婦人服の他、バロンタガログ、ズボンなどもオーダーできる。

衣料品は次のところで入手できる。

<デパート>

SM (シューマート)

フィリピン最大のチェーン店。高級品から手頃な価格のものまで揃う。

ランドマーク

高級品から手頃な価格のものまで揃う。

ルスタンス

最高級品を取り揃えている。

<ショッピング街>

アヤラセンター、クアッド、6750

SM、ランドマークに隣接。衣料品店のほか、靴、生地、時計、宝石、スポーツ用品、玩具、ベビー用品などの店がある。

メガモール

アジアでも5本の指に入る大規模のショッピングモール。SMを中心に様々な店が参入しており、衣類のほか、大抵のものは揃っている。

シャングリラプラザ

ルスタンスに隣接。高級品を扱う店が多い。

マカティ・シネマ・スクエア

安価なものを中心に扱っている。

デパートなどでは定価販売であるが、土産物店やローカルマーケットでは値段を交渉することも楽しみのひとつである。また、デパートではバーゲンセールがある。

ローカルマーケットには、バクララン教会裏手のマーケット、デイビソリアマーケット、クバオマーケット、キアポマーケット、アラバンマーケットなどがあるが、必ずしも安全ではないので出かけるときは気をつけること。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼装

(1) パーティー

所属機関にもよるが、夫婦でパーティーへ出席する機会が多い。あまり堅苦しく考える必要はなく、女性は少しエレガントな外出着程度のものや、長袖のスーツ、やわらかい素材のワンピースやツーピースなどが望ましい。ロングドレスを着るような機会はほとんどない。邦人男性はバロンタガログかビジネススーツというのが一般的である。パーティーの招待状に服装が指定（下記）されている場合はそれに従えばよい。特に指定がない場合は気軽な服装で出かければよい。

カジュアル指定：男性はバロンタガログまたは衿付シャツ。

女性は外出着など。

フォーマル指定：男性はスーツまたは長袖のバロンタガログ。

女性は華やかなワンピースやスーツなど。男性同様、長袖にするとフォーマルな雰囲気になる。

(2) 式典

該当情報なし。

(3) 冠婚葬祭

結婚式やデビュー（上流階級では18歳を機に社交界にデビューする）に招待された場合、男性は長袖のバロンタガログ（バナナやパイナップルの繊維で作られた正式なもの）またはスーツを着用する。日本式の黒いスーツに白いネクタイは一般的ではない。女性がデビューに招かれた時は、女性用バロンタガログまたはイブニングドレスで出席する。結婚式には外出用ワンピースやスーツでもよい。黒と白は避けるのが無難である。

(4) その他の留意点

バロンタガログ着用の際、ズボンは黒または茶色の無地にするのが正式である。

着物を着る機会はほとんどないが、浴衣を子供とお揃いで持参すると、幼稚園の行事などに使えることがある。小学校でも各種行事に着る機会があるので子供用だけでも持参するとよい。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニングは、ホテルのクリーニング店が安心である。受取時にはボタンがとれていないかなどチェックすること。その他、市内にも多数あるので近所の評判などを聞いて選択すればよい。

(2) 仕立て、修繕

マニラには多数の仕立屋があるので、最初は友達、知人に紹介してもらい、自分の気に入った店を探すとよい。仮縫いの方法は日本と異なり、襟、袖、ベルト通しなどは既に縫いあがっている。したがって注文する時点で細部まで指示を与えておくこと。型見本や写真を持参すると理解してもらいやすい。日本からスタイルブックを持参すると便利である。

服が出来上がってからの値引き交渉はむずかしいので、料金は最初にとり決めておくこと。

(3) 保管

一年中暑いため衣類の洗濯は頻繁であり、傷みやすく色もあせやすい。また、高温多湿でカビのはえやすい条件が揃っており、注意しなければならない。

シルクおよび薄手の衣類は着用後すぐにクリーニングに出すこと。

革製品は、使用後にクリーナーで汚れをよく落として乾燥させ、防虫剤や乾燥剤を入れて高い場所に保管するとよい。

保管の際、ビニール袋は避けること。平屋で湿気のある場所では時々点検をし、風を入れたり、乾季に虫干しをするとよい。

乾燥剤はデパートで日本製品が購入できるが、当座使用する分は持参したほうが安心である。ハンガータイプの乾燥剤や防虫剤も持参することを勧める。

不定期ではあるがボランティアグループが古着の収集をしている。まだ使用できる状態で着用しない衣類があれば提供するとよい。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

長期滞在者向けに、ビレッジと呼ばれる高級居住区域内の一戸建てや、コンドミニウムと呼ばれる高級マンションがある。しかしマニラ首都圏の家賃の上昇は著しく、とりわけ多数の JICA 関係者が住むマカティ市内の家賃上昇率は年 110～130% にもなり、住宅探しはやや困難である。

マカティより車でサウススーパーハイウェイを使って 30 分ぐらいのアラバンにも、JICA 専門家を含む邦人が数家族住んでいる。

短期滞在者（数日～数ヵ月）または単身者向け宿泊施設として、ホテルやアパートメントホテルがある。

【一戸建て住宅】

外国人が居住する一戸建て住宅は、高い塀で囲まれたビレッジとよばれる住宅区域内にあり、アソシエーション（管理事務所）が管理している。環境は良好であり、子供のいる家庭および外国人を多数招待する必要のある人に適している。

マカティ地区内で邦人が多く居住しているビレッジは、San Lorenzo、Bel Air (I, IV)、Magallanes、Urdaneta、Das Marinas、For-bes Park などである。またメトロマニラ（マニラ首都圏）内には New Alabang、Wack などがある。

一戸あたりの敷地面積はビレッジによって異なるが、およそ 500～2,000 平方メートルあり、応接間、書斎、ダイニングルーム、台所、2～4 寝室、使用人部屋、ガレージなどが備わっている。また、プール付きの住宅もある。家具付きと家具なしの物件がある。

家賃は敷地面積や建物によって異なるが、1ヶ月あたりおよそ 8 万～20 万ペソである。入居に際し、1～2 年の賃貸契約で家賃 1 年分と家賃 1～3 ヶ月分の預託金を入れるのが一般的である。

アソシエーションが組織している武装したガードマンが、24 時間ビレッジの人の出入りをチェックしており、夜間はビレッジ内を巡視している。しかしながら、ビレッジ内での盗難件数は少なくない。このため居住者は独自のガードマンを雇って夜間敷地内を監視させたり、犬を放し飼いにし、建物周辺を照明するなどの自己防衛をしている。

【コンドミニウム（高級マンション）】

単身者、または夫婦だけの場合に適している。コンドミニウムは近年建設が進み、マカティ市、ケソン市、マニラ市内などにみられる。マカティ市には Tuscany Apartment、Island Plaza、Cosmopolitan Tower などがある。ケソン市には Renaissance Tower、The Alexandra など。マニラ市内には Legaspi Tower などがある。

コンドミニウムは十数階建てで、ビル管理会社によって運営されている。1フロアを 2～10 世帯で有し、一戸建て住宅の間取りと同様、2～3 寝室を備えている。

家賃は、家具・食器付き (Full Furnished)、一部家具付き (Semi-Furnished)、家具なし (Unfurnished) および寝室数で異なるが、7 万～15 万ペソ程度で、契約条件は一戸建て住宅と同様である。

管理事務所によって入館者がチェックされ、また各戸は鍵ひとつで外部と隔離できるため、防犯面では一戸建て住宅より優れている。

幹線道路に面した部屋は交通騒音、排気ガス臭がひどいため避けたほうがよい。

【アパートメントホテル】

単身者向きである。1～2寝室、応接間に台所および炊事用具、食器（約4人分）、冷蔵庫、使用人部屋がついたもので、建物の1階にはホテルと同様にフロントがある。いわば自炊のできるホテルである。

マニラ市内には Tropicana Apartment Hotel などがあり、マカティ市には Gilarmi Apartment Hotel、Charter House、The Olympia などがある。

施設内容はコンドミニアムより1ランク下がる。家賃は1ヶ月2万8,000ペソ前後である。週単位、または月単位の利用が一般的であるが、契約により長期入居することも可能である。

防犯対策はコンドミニアムのように整ってはいない。人の出入りが多く騒がしい。

3-2 ホテル事情

メトロマニラ（マニラ首都圏）では、シングル1泊200ドル（税・サービス料別）前後の高級ホテルから、60ドル前後のリーズナブルなホテルまで多数揃っている。

高級ホテルには、日本資本が入っているセンチュリーパークホテル（全日空）、ホテルインターコンチネンタルなどがある。そのほか、ヒルトンホテル、マニラマングリンホテル、ホテルマニラペニンシュラ、ハイヤットホテル、シャングリラホテルなど欧米、香港系資本の入ったホテルがある。これらのホテルは概ね安全・清潔で、レストラン、プールなどの施設も整備されている。

高級ホテルでは防犯対策として、ホテル入り口にて入館者の荷物チェックを実施している。また、1984年から85年にかけてマニラ市内で続発したホテル火災以後、館内巡視ガードマンの増員、消火設備強化、避難経路の明確化などを実施しているが、日本の規準からいえば十分とはいえない。

ホテル室内での強盗・盗難の被害を時折耳にする。必ずドアチェーンを使用し、見知らぬ人を入室させないことが肝要である。貴重品は必ずフロントの Safety Deposit Box に預けること。また、夜間の火災に備え、懐中電灯を持参することも勧める。

JICA 事務所と提携している主なホテルは次のとおりである。料金はシングル一泊（税・サービス料抜き）の場合であるが、変動があるので利用前に確認すること。

ホテル	所在地	電話	料金
ドゥシット・ホテル・ニッコー	MCC, Makati	867-3333	110ドル
ホテル・インターコンチネンタル・マニラ	Ayala Ave., Makati	815-9711	108ドル
ホテル・マングリン・オリエンタルマニラ	Makati Ave., Makati	750-8888	80ドル
マニラ・ミッドタウンホテル	Adriatico St. Ermita, Manila	526-7001	95ドル（税・サービス料込）

3-3 住宅の探し方

住宅を探すには、斡旋業者に依頼する、ビレッジアソシエーションやコンドミニアム管理事務所の空き家リストから探す、直接ビレッジ内の借家表示で探す、知人から紹介してもらうなどの方法がある。最近では斡旋業者に依頼するケースが増えている。

JICA 関係者が利用している業者は次のとおりである。

GENESIS

電話：890-3266、896-5257、890-9309

担当者：Carol

GLOBEX

電話：815-1880、816-2673

担当者：Linda

Havenhomes

電話：812-3031、813-8581

担当者：Valcanbia

3-4 住宅の選定上の留意点

家族がいる場合は一緒に見て選ぶのがよい。見方が異なり十分にチェックできる。バスタブ、使用人用台所、運転手の休憩室の有無、書斎（多目的に利用でき、あると便利）の有無を確かめること。

部屋毎に施錠できるのが望ましい。特にマスタールーム（主寝室）は完全に施錠でき、さらにドアスコープがついているとよい。また、マスタールームのクローゼット類にも錠がついていると安心である。

温水が出るか、また温水器の容量は十分かを確認する。特に階上は水の出が悪いことが多いので、実際にシャワーやトイレの水量などを確認すること。また、断水が多いので、断水対策（貯水タンク）が施されているか確認する。

即使用可能な電話の有無を確認すること。今現在電話がついていなければ、家主が取り付けると約束しても、まず簡単にはつかないものと心得た方がよい。

高い塀、高い門などは風通しが悪くむし暑い。また、日当たりのよすぎる部屋はクーラーが効かない。特に台所が南向き、または西向きの場合は日差しで家事がつかなくなり、食料品の傷みも早い。風通しのよい家を選べば、冷房にかかる電気代が節約できる。これらを考慮して間取りを見ること。

交通量の多い車道に面している住宅は、交通騒音、排気ガス臭があるので避けた方がよい。また学校の近辺も騒がしく、車が多い。排気ガスで小さい子供は気管支を悪くすることもある。

外観からは解りにくいですが、白アリ駆除がなされているか確かめること。

窓枠に鉄格子がついているか確認する。ガラスだけの窓は不用心である。

近辺に、空き地や工事中の建物（犯罪が起きやすい）などがないか調べるとよい。昼間だけでなく、早朝や夜にも周辺を調べてみることを勧める。

空き家の場合はその経緯を調べること。

家主の人柄・職業などに留意すること。

3-5 住宅の契約

契約書のサインおよび公証人のサインを得た後、家賃、デポジット（敷金）を支払うこと。家賃は1年分の前払いが一般的である。

入居後思わぬ問題点が生じたり、突然の帰国などで契約満了前に家を出る場合がある。この場合に備え、契約書にその条件を明示しておくこと。

デポジットは家賃の1～3ヶ月分を要求されるが、返還に応じない家主もいるので、契約終了時に返還することを契約書のなかに明記しておくこと。

家の修理はどこまで自己負担か、家主負担かを契約書に明記すること。通常、数千ペソ以下は借り主の負担となる。

契約書の履行にあたっては、家主と借り主との信頼関係が前提となる。借り主は誠実に契約を守るとともに、家主との付き合いにも留意すること。家主といつでも接触できるよう、家主の勤務先、自宅の電話番号、住所をメモしておくこと。

ビレッジであればアソシエーション、コンドミニアムならばビル管理人に入居の登録をすること。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気代、電話代、水道代、家具類、各種修理、電気製品などの領収証はすべて保管しておくこと。

害虫駆除、プロパンガス、上下水道の修理、カーテンの作製などについては、契約時に家主から聞くか、在留邦人から聞くとよい。

3-7 その他

防犯上の欠陥があれば整備をする必要がある。例えば、エアコンの配管跡は簡単にベニヤ板で塞いであることが多い。新しくエアコンを入れるなり、家主の同意を得て完全に遮へいすること。いずれの修理も家主かアソシエーションに相談した方がよい。

修理などを業者に頼む場合は、前もって料金の相場を調べておき、不当に高い料金を請求された時は、値引きしてもらうよう交渉すること。

国産の電球はすぐ切れるので、各種必要な電球を常備しておくこと。

植木は庭師に依頼すれば大抵のものは簡単に育つので、わざわざ買う必要はない。

電圧には110ボルトと220ボルトがあるが、近年建設された住宅は220ボルトのみの供給であることが多い。両方の電圧が利用可能な家では、コンセントはしばしば並列に配置されている。よく確かめてから使用すること。コンセントの受け手と差し手に110ボルトと220ボルトの表示をつけておくとよい。

家主を食事に招待したり、クリスマスプレゼントをするなどして、日頃から関係を良好に保つよう留意すること。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

入国に際して定められた予防接種はないが、A型肝炎の予防接種を受けることを勧める。破傷風、狂犬病、B型肝炎、日本脳炎については、職種、任地および生活環境を考慮して必要であれば接種する。

(2) その他の準備

持病がある場合は、かかりつけの医師から英文の紹介状をもらっておくこと。

4-2 医療事情

JICA 事務所には、派遣事業部技術者管理課から健康管理員が派遣されており、医療情報の提供や健康相談などを行っている。また、派遣専門家の着任時には、当員より個別に詳細なオリエンテーションがある。

当地では日本人会診療所を除き、日本語を話せるスタッフがいる医療機関はない。首都圏における医療水準は日本の主要都市と変わらないが、地方都市や地方町村では十分ではない。

(1) 医療機関

公立よりも私立の医療機関が多い。また、私立病院は設備やサービスも充実している。私立病院のシステムは「オープンシステム」とよばれ、医師は各々独立したクリニックを開業しており、必要に応じて契約病院の施設や設備を自分の患者のために使用する。受診の際は、初めに医師を選択して予約を取り、その医師のクリニックへ行くことになる。

邦人がよく利用する首都圏の医療機関は次のとおりである。

マニラ日本人会付属診療所

住所：2nd Floor, Jaycem Bldg., 104 Rada St., Legaspi Village, Makati City

電話：818-0880、819-2762

受付：平日 8:30～11:30、13:30～16:00、土曜日 8:30～11:00、日・祭日休診

備考：軽い内科疾患を対象とした診療、健康診断、予防接種を実施。予約は必要ない。邦人医師が常駐しているが、法律で医療行為は禁じられており、診察・治療はフィリピン人医師が行う。邦人医師は医療相談のみ。救急外来、入院設備は無い。

Makati Medical Center (MMC、マカティ・メディカル・センター)

住所：De la Rosa St., Legaspi Village, Makati City

電話：815-9911 (代表)

受付：時間は医師により異なるので、受付に問い合わせる。

備考：次ページの S L M C の備考欄を参照のこと。

St. Luke's Medical Center (S L M C、セント・ルークス・メディカル・センター)

住所：279 E. Rodriguez Sr. Blvd., Queson City

電話：723-0101 (代表)

受付：時間は医師により異なるので、受付に問い合わせる。

備考：MMCとS L M Cは国内で最高水準の私立病院。院内には全科の専門医がクリニックを開業している。入院施設は日本の平均的施設よりもよい。

Rosero's Dental Office (ロセロス歯科クリニック)

住所：Arnaiz Ave., 3F Jonis Cakes and Pastries, Makati City

電話：843-3811～16、844-8683、843-1018

受付：9:00～12:00、13:00～17:00、土曜日 ～14:00

Dr. Ligaya Chan Clinic Dr. (チャン歯科クリニック)

住所：Herrera St., Medical Towers Bldg., Makati City

電話：810-0788

受付：8:00～12:00、13:00～17:00、土曜日 ～16:00

Dr. Macapanpan Clinic (マカパンパン小児科クリニック)

住所：3F Kalayaan Bldg., Salcedo St., Cor. de la Rosa St., Makati City
(MMC裏のビル)

電話：818-0142、892-5906～8

受付：8:30～12:00、14:00～16:30、月・水・土の午後と日・祭日は休診

Dr. Maria Posadas Clinic (ポサダス 小児科クリニック)

住所：マカティ・メディカルセンター内、379号室

電話：815-9911 (ext.2379)

受付：月・水・金 14:00～17:00、火・木・土 9:00～12:00

(2) 緊急時の対応と措置

24 時間体制の病院の緊急外来を利用する。公的な救急車はないが、病院の救急車を呼ぶことができる。ただし、自家用車を利用するほうが確実に早い。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

持病のある場合は、当座に必要な医薬品を持参すると安心である。

(2) 任国で調達できる医薬品

大抵のものは入手できる。

(3) 任国で調達できる衛生用品

大抵のものは入手できるが、生理用ショーツや幼児のトレーニングパンツなどはあまり出回っていないので持参したほうがよい。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

一般に、1錠の用量は日本製の錠剤より多いので注意すること。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

病院では麻酔薬による無痛分娩が一般的である。首都圏での分娩は日本と大差ない。ただし、未熟児への対応はややリスクがあると思われる。人工中絶は宗教上の理由から

まず不可能である。

(2) 出産後の対応

正常分娩の場合、通常3日目に退院となる。出産後の育児指導などはないが、自宅にて看護婦による個人指導を受けることができる。これは看護婦のサイドビジネスであり、入院中に看護婦より話が持ち込まれることがある。産後の母親検診は担当医のクリニックで受ける。乳児は小児科医のクリニックで検診、予防接種を受ける。

(3) 育児

育児に必要なものは購入可能である。子供が熱を出した時などは、スーパーや氷屋においてある袋入りの氷（キューブアイス）が便利である。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

首都圏では、冠動脈バイパス手術や腎移植なども実施されており、あらゆる手術が可能である。

(2) 手術設備の状況

首都圏においては、最新ではないが設備は整っている。

(3) その他の留意点

担当医師の選択が重要となる。看護体制、食事、言葉の問題などを考慮すれば、緊急の場合を除き、手術は日本で受けることが望ましい。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

高温多湿な気候のため、水虫、湿疹などは悪化することが多い。また、雑菌が多いため、傷を放置しておくとなじみやすい。

都市部の空気はかなり汚染されている上に、クーラーにより室内と屋外の温度差が大きいため、喉を痛めやすく風邪をひきやすい。下痢、腹痛などの胃腸炎も多い。

(2) 風土病・伝染病

マラリアの多い国であるが、首都圏やビーチリゾートでは感染の心配はほとんどない。アメーバ赤痢、デング熱、食中毒は都市部でも多く要注意である。

A型肝炎、肺結核は依然として罹患率が高い。

(3) 有害動物、病害虫

地方には、フィリピンコブラが棲息しているところがある。木立や藪に入る時は、咬まれないよう服装などに注意が必要である。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

水道水は直接飲用できない。水道水を3分間以上煮沸させたもの、またはミネラルウォーターを飲用する。

(2) 濾過器の入手

アメリカ、ヨーロッパブランドの製品が市販されている。

(3) その他の留意点

毎年、貝毒による死亡者が出ている。雨期（6月～10月）には、火が通してあっても国産の貝類は食べない方がよい。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

数の上ではアジアでも飛び抜けて高い教育水準を誇るが、施設面や教員面、卒業できない児童などの問題を抱えている。また、公立学校と私立学校間の格差が著しい。

義務教育である小学校（6年制）の前に、幼稚園（1～2年）、小学校予備課程（1～2年）がある。これらは強制ではなく、裕福な家庭の子弟など一部の児童が通っている。小学校の後は、高校（4年間、非義務教育）となる。大学は専攻学科により4～6年制で、法学部と医学部は大学学部卒業を入学要件とする、いわば大学院大学になっている。

公立・私立とも2学期制をとっており、第1学期は6～10月、第2学期は11～3月である。3月末から6月初旬まで約2ヶ月半の長い夏期休暇があり、学期の区切りには約2週間の休みがあるのが一般的である。

公立学校の授業言語は、英語と標準ピリピノ語および方言が混在しているが、最近では標準ピリピノ語の普及が著しい。また、社会科学など一部高等教育にも標準ピリピノ語による教科書作成や授業の試みが行われている。ただし、私立学校や理科系高等教育の場では英語が主流である。

邦人子弟の多くは、日本人学校またはインターナショナルスクールに学んでいる。

(2) 日本人学校

在フィリピン日本大使館付属マニラ日本人学校

所在地：Barangay Don Bosco Levitown Subdivision Paranaque

電 話：823-2591～94

小学校1年生から中学校3年生までを対象に、教職員28名により日本と同様の全日制教育を行っている。運営の主体は日本大使館および日本人会であり、経費は政府援助金、日本人会補助金、入学金、授業料、寄付金などによって賄われている。入学資格は「保護者が日本国籍を有すること」となっている。

学級数は、小学部は各学年2クラス、中学部は1、2年生は2クラス、3年生のみ1クラスである。

1997年9月1日現在の児童・生徒数は次のとおりである。

	小1	2	3	4	5	6	中1	2	3	全校合計
男子	56	40	32	26	44	22	22	17	9	268
女子	33	38	32	36	28	29	22	13	9	240
計	89	78	64	62	72	51	44	30	18	508

(3) 現地校、外国人学校

インターナショナルスクール

所在地：1255 Makati Metro Manila

電 話：896-9801

F A X：632-8186/27

(4) 幼稚園

邦人向けの幼稚園は特にないが、マカティ地区にある幼稚園では2才過ぎからの入園が可能である。英語による保育を通じ、フィリピン人子弟や外国人子弟と交流を深めている。

新学期は6月に始まる。制服も持ち物も自由で、給食はなく、途中でスナックタイムがある。休園日は土日のほか、フィリピンの祝祭日、フィリピン政府から特別の休校令が出された時、ストームシグナル No.2 以上（数字が大きいほど台風は強い）が発令された時、夏休み、4～5月の学期の区切りに約1週間である。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

現在在学中の学校で教科書給付証明書、在学証明書、指導要録（コピー）、健康診断票、歯科検査証をもらう。その後、教科書給付証明書と印鑑を持って、海外子女教育振興財団（次ページ参照）から日本人学校で使用する教科書の給付を受ける。

必要書類を日本人学校に提出し、学校備え付けの入学申請書を書くと同時に、諸経費を納める。また、日本人会に入会することが原則となっている。

1997年度の諸経費は次のとおりである。

入学金	10,000 ペソ
授業料（1ヶ月）	小学部 3,000 ペソ、中学部 3,300 ペソ
施設設備費（学期毎）	4,000 ペソ
学童傷害保険料（年額）	300 ペソ
P T A 会費（年額）	350 ペソ
スクールバス代（月額）	1,700 ペソ

上記のほか、各学期の初めに教材費が必要である。

各居住地区から学校までは距離があるため、通学にはスクールバスまたは自家用車を利用している。スクールバスは各ビレッジの公園が集合場所となっており、7:00頃に出発する。父母が交代（当番制）で添乗している。スクールバスを利用するには、学校備え付けのスクールバス契約書と申込書（バス委員が持っている）に必要事項を記入し、近所のバス委員に提出する。

給食はなく、各自弁当を持参する。毎日暑く、大量の汗をかくため水筒は必需品である。学校にも飲料水はあるが、弁当のない日でも必ず各自が麦茶などを持参する。

休校日はフィリピンの祝日、土・日曜日、フィリピン政府から休校令が出された時、ストームシグナル No.3 以上が発令された時、校長が、児童や生徒の安全上必要と認めた時などである（日本の祝祭日は通常通り）。

<持参する必要のある学用品>

・全学年

各学年に応じた社会と理科の学習図鑑・参考書、30センチメートルの竹製のさし、国語辞典、絵の具一式、はさみ、クレヨン・クレパス赤白帽（男女とも）、水泳帽、白のショートパンツ（男子用）、ブルマー（女子用：黒または紺）、下敷きなど。

- ・小学部 3年生以上
毛筆道具一式（学校に在庫があれば分けてもらえる）、そろばん（3～4年）、
たて笛（ソプラノリコーダーG）、彫刻刀など。
- ・小学部 4年生以上
漢和辞典など。
- ・小学部 5年生以上
刺しゅうセット・裁縫道具一式（男子も必要）など。
- ・中学部
中学生製図用具（男子：T定規・製図板不要）、英和・和英辞典など。

<持参した方がよい学用品>

フェルトペン、三角定規、分度器、コンパス、ハーモニカ、鍵盤ハーモニカ、カッターナイフ、サインペン（油性）、なわとび用のなわ（ビニールでないもの）、フェルト布地、色鉛筆、ノート、カバン（自由）、色紙、各学年・教科に応じた参考書・ドリルなど。

<その他>

運動靴、ステンレスの水筒（当地にはない）、弁当箱、ホッチキスなどの事務用品、お誕生日用プレゼント（小さくて安いものを多く。ちょっとした日本製品が喜ばれる）、ビニールプール、虫とりかご、虫とり網、おもちゃなどを持参するとよい。書籍類はできれば多い方がよい。学校の上履きは不要である。

入学手続き、必要な教材などの詳細は下記へ問い合わせること。

海外子女教育振興財団 インターネット：<http://www.joes.or.jp>

東京本部 住所：〒 105-0000 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門NNビル 6階
電話：03-3580-2521

関西分室 住所：〒 530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-200 大阪駅前第一ビル 2階
電話：06-344-4318

(2) 現地校、外国人学校

インターナショナルスクールの入学手続きは次のとおりである。

所定の用紙（Registration Packet）を学校でもらう。幼稚部（ECLC）および第1学年の申請者は出生証明書が必要で、入学時に5～6才に達していることが条件である。入学願書と、在籍していた学校の在学証明書（英語以外で記載されている場合は正式翻訳が必要）を持参し、両親同伴で面接を受ける。前校において標準試験記録を有しない者は、面接に先立ち入学試験を受ける。英語を第二外国語とする児童はESLの調整員の面接を受ける。前校にて標準試験記録を有する児童はこれを免除される。その後の手続き、必要書類、費用は次のとおりである。

- ・登録
- ・教育相談員による面接
- ・健康診断書（一般医科・歯科健康診断書）提出：入学許可が出たら学校医に提出。学校医による診断あり。
- ・各種書類提出：外国人児童のためのフィリピン政府証明書用紙、各種記録謄本申請書、同意書、最近撮影されたパスポート用写真6枚、保険証。

- ・ 入学金……2,500 米国ドル。フィリピン通貨でも支払い可能である。
- ・ 年間授業料：1997 年 9 月現在、次のとおりである。

Early Children Learning Center……………7,500 米国ドル
 Elementary School (1～5 年) ……………8,000 米国ドル
 Middle School (6～8 年) …………… 9,400 米国ドル
 High School (9～12 年) ……………10,000 米国ドル

- ・ バス通学料金 (年間料金)：下記その他、諸雑費経費がかかる。

マカティ地区……………20,980 ペソ

マカティ以外の地区……………27,016 ペソ

1997 年のスケジュールは次のとおりである。スケジュールは年によって変動することがある。

First Semester

1st quarter 8 月 13 日～10 月 15 日

2nd quarter 10 月 16 日～12 月 19 日

Second Semester

3rd quarter 1 月 13 日～ 3 月 26 日

4th quarter 3 月 30 日～ 6 月 5 日

(3) 幼稚園

Casa Montessori International Nursery School

所在地：43 Mckinley Rd. Forbes South

電 話：810-9722, 810-6775

教 員：27 人

児 童：約 180 人

授業時間：

Toddler (1.5 才～2.5 才) ……8:00～9:30, 9:30～11:00, 15:00～16:30

Regular (2.5 才～3 才) ……8:00～11:00, 13:00～16:00

Extended Day Program 1 (4 才～5 才)……7:30～11:30, 12:30～16:30

Extended Day Program 2 (5 才～6 才)……8:00～15:00

Summer School……April to May

授業料：Toddler……6,200 ペソ (月額)

Regular……95,300 ペソ (年間)

Extended Day Program……113,300 ペソ (年間)

Extended Day Program……135,300 ペソ (年間)

4～5 月の Summer School……別料金

ピアノ、バイオリン、スイミングなど…… (別料金)

Makati International Playgroup (Union Church)

所在地：Corner Legaspi & Rada Str. Lagaspi Village (Union Church の工事のため移転予定)

電 話：892-5909, 892-5904

教 員：8 人 (4 クラス)

児 童：約 45 人 (邦人 10 人)
対象年齢：1.5～5.5 才
授業時間：Toddler (1.5 才～2.4 才) ……………8:45～11:15
 Pre-Nursery (2.5 才～3.2 才) ……………8:30～11:30
 Junior Nursery (3.3 才～3.11 才) ……8:30～11:30
 Senior Nursery (4 才～5.5 才) ……………8:30～11:30
授業料：午前クラス……8,500 ペソ/10 週 (スナック代 1,500 ペソ)
 全日クラス……15,500 ペソ/10 週
登録料：200 ペソ
備 考：マカティ地区のみバス送迎あり。月 1,100 ペソ

Early Learning Centre

所在地：27 Tampingco Str. San Lorenzo Village
電 話：817-7274, 817-4899
教 員：15 人
児童数：150 人 (邦人 70 人)
授業時間：Toddler (1.5 才～2.5 才) ……8:30～10:45
 Small (2.5 才～3.5 才) ……………8:30～11:15
 Medium (3.5 才～4.5 才) …… 8:30～11:30
 Vertical (4 才～6 才) …………… 8:30～11:30
備 考：送迎バスなし

Creative Playcentre School Inc.

所在地：4951 Pasig Rd. Das Marinas Village
電 話：810-8637
教 員：21 人
児 童：100 人
授業時間：Nursery (1.9 才～2.9 才) ……………8:30～11:00
 Junior Kinder (2.10 才～3.4 才) ……8:30～11:30
 Senior Kinder (3.4 才～5.6 才) ……………8:30～12:00
 月・水・金は 13:00～14:15 もあり。
授業料：午前クラス：64,500 ペソ
 全日クラス：84,500 ペソ

International School (ECLC)

所在地：1255 Makati Metro Manila
電 話：88-98-91 ～ 95
授業時間：8:00～12:00
授業料：7,500 米国ドル/年 (ペソでも可)
備 考：マカティ地区のみバス送迎あり。

Childstart International

所在地：67 Amapola St. Bel Air
電 話：896-6252 Fax：899-7476

教 員：10 人
児 童：75 人 (邦人 60 人)
授業時間：8:30～11:30
備 考：マニラ市内に 2 分校あり。

Eleanor Esteban Learning Centre

所在地：1949 Kasoy Corner Amorosolo, Das Marinas Village
電 話：844-2912, 892-4804
対象年齢：1 歳 3 ヶ月より
授業料：2 hour Class……59,750 ペソ (1.3～1.11 歳)
3 hour Class……65,750 ペソ (1.3～3.5 歳)
4 hour Class……77,750 ペソ (3.6～4.5 歳)
7 hour Class……94,250 ペソ (4.6～6.5 歳)

San Lorenzo Shcool

所在地：Zulueta Circle Corner, Nakdil Str. San Lorenzo Village
電 話：817-0653
教 員：4 人
児 童：50 人 (邦人 15 人)
授業時間：Pre-Nursery (1.5 才～ 3 才)……8:30～11:00
Nursery (3 才) ……………8:30～11:00
J. Kinder (4 才) ……………8:30～11:30
Kinder (5 才) ……………8:30～11:30
授業料：8:30～11:00……42,000 ペソ/年
8:30～11:30……40,000 ペソ/年
サマースクール…… 4,000 ペソ
入学金：2,000 ペソ
教材費：約 2,000 ペソ

5-3 教育関係施設

- (1) 図書館
該当情報なし。
- (2) スポーツ施設
該当情報なし。

5-4 家庭学習

- (1) 家庭教師
個人の家庭教師が数人いる。
- (2) 学習塾
サンロレンソビレッジには公文式の塾がある。
- (3) 通信教育
学研などの通信教育を出発前に申し込んだり、当地の新聞広告により申し込んだりしている。郵便事情があまりよくないため、時間がかかることがある。OCSを利用すると、割高ではあるが确实である。

OCS 東京本社

所在地：〒108-0023 東京都港区芝浦 2 - 9

電 話：03-5476-8131

OCS Manila Office

所在地：C/O Republic Courier Sevice Inc. Unit G4 & G5, Ground Floor, First
Cityland Condominium, Rada St. Legaspi Villagi

電 話：817-8282~83

また、海外子女教育振興財団（P.20 参照）が行っている海外向けの通信教育があり、小学校、中学校の国語、数学、理科、社会などが受けられる。詳細は直接問い合わせるとよい。

(4) 携行した方がよい家庭用学習教材

P.20 を参照のこと。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

家政婦／夫、子守、運転手、庭師などを雇用することができる。使用人に指示を与え、家事が円滑に行われるように監督することは大変な苦勞で、ときには神経をすり減らすこともある。しかし、使用人に対する基本的な知識および労働基準法を知っていれば、トラブルも少なく、より快適な生活を送ることができる。

賃金は、前任者や同僚のアドバイスを受けながら決めるとよい。

求人には、前任者から引き継ぐ、友人・知人からの紹介、日本人会、ユニオン・チャーチなどの掲示板より探す、直接、求職してきた人から選考するなどの方法がある。雇い主として心得ておくべきことは次のとおりである。

- ・ 運転手、家政婦／夫を雇用した場合は、社会保険（健康保険、年金、住宅ローンなどを含む）に加入させることが義務づけられている。手続きについては最寄りの社会保険事務所(Social Security System：SSS)に問い合わせること。
- ・ 結核患者が多いため、家政婦／夫、子守（特に必要）、運転手を本雇用する前に胸部レントゲン検査をした方がよい。費用は雇い主負担となる。マニラ日本人会診療所（電話 818-0880）で検査を受け付けている。
- ・ 彼らの人格を尊重する。
- ・ 互いに生活習慣が違うので、その場に応じた礼儀作法を教える。
- ・ 石けんでの手洗いを励行してもらう。
- ・ 貴重品、現金は放置しない。錠のかかる場所に保管する。
- ・ どんな小さなミスでも他人の前では注意しない（盗みの疑いのある時も、人のいない所で確認する）。
- ・ 大人はもちろんのこと、子供達にも、用事をしてもらった時には「ありがとう」を言う習慣をつけさせる。
- ・ 前借りを申し込まれても受け入れない方がよい。もし貸す場合は、基本賃金以内の額にする。その際は必ず借用書にサインさせること。
- ・ 品物が頻繁になくなるような場合は、辞めさせた方がよい。使用人側の問題（盗癖など）で退職させる場合は退職金は必要ない。
- ・ クリスマスには家庭の使用人、家庭教師、スポーツのコーチ、新聞・郵便配達人、ゴミ収集人などに現金あるいは10～30ペソ程度の贈り物をするのが習慣となっている。また、ビレッジのアソシエーションにも現金や品物（300～500ペソ程度）を寄贈するとよい。
- ・ トラブルを未然に防ぐため、使用人の賃金支払いノートを作成し、領収証がわりに賃金、ボーナス、退職手当金の支給ごとにサインをもらう。ノートには各人別に名前、生年月日、出身地、現住所、緊急時の連絡先および勤務開始日を明記しておく。欠勤、無断欠勤、病欠、遅刻、早退、前借りをした日付、額、その支払い方法、また、解雇や退職の場合も、日時、理由などを明記してサインをもらう。
- ・ 使用人が病気になった時は、まず各ビレッジにあるクリニックに連れて行く。場合によっては日本人会診療所に連れて行くことも考える。

6-2 運転手

(1) 雇用

運転手には自分や家族の命を預けることになるので、慎重に選ぶこと。事故が起きた場合を想定するとフィリピン人が望ましい（比較的解決しやすい）。また、住まいが近く、通勤しやすい人であれば、緊急時に呼びに行くことができ、夜遅くなった場合に支給するタクシー代が安くすむ。散漫で落ち着きのない人は勧められない。

面接、選考時の留意点は次のとおりである。

- ・名前、現住所、出身地、生年月日、電話番号（自宅になれば、近所の呼び出し番号）を聞く。
- ・プロフェッショナル・ドライバーライセンスを持っていることを確認する。
- ・免許証の更新がなされているか、領収証でチェックする。
- ・免許証に違反、事故などの記載がないかチェックする。
- ・免許証番号を控えて調査し、本物であることを確認する。
- ・運転は誰から習ったかを聞く。友達や兄弟から習ったり、見様見真似で覚えたりで交通法規を知らない人が多いからである。
- ・運転年数、希望賃金を聞く。
- ・前の勤務先、勤続年数、退職理由、賃金額、独身者か既婚者か、扶養家族は何人か（扶養家族が多い人は、子供の病気で休んだり、前借りを申し込まれることが多い）を確かめる。

次のような雇い主側の諸条件を求職者に伝え、両者が合意すれば仮雇用とする。下記の条件は一般的なものである。

- ・仮雇用期間は1～2ヶ月とし、その間に胸部レントゲン撮影をすること。
- ・仮雇用期間中および本雇用後の基本賃金、食費手当、交通費、超勤手当額（具体的に提示する）。
- ・休日は1週間に1日とし、国民の祝祭日も休日とする。
- ・昇給は年10%、ボーナスは基本給1ヶ月分をクリスマス時に支給する。
- ・運転手自身の不注意で起こした事故については運転手が責任を負う（責任分担額を明確にしておく）。
- ・運転業務のない時は水撒き、犬の散歩、その他の手伝いなどをする（当初に取り決めておく）。

運転技術については実際に横に座り、次の事柄についてチェックした方がよい。

- ・安全運転かどうか。スピードの出し過ぎや無理な追い越し、無理な車線変更をしないかどうか。追い越し、車線変更時など警笛を鳴らすか。方向指示機を出すか。
- ・車両、特にブレーキシステムの故障、異常を迅速にキャッチし、善処できるか。
- ・発進、停止の際にエンジンをふかしすぎないか。ギア・セレクトを速度に応じてまめに換え、ガソリンの節約、エンジンの維持に努めるか。
- ・ボンネットの内部の説明ができるか。故障の際に応急処置ができるか。パンク時にタイヤの交換ができるか。
- ・一方通行や進入禁止などの交通標識がわかるか。
- ・道路地図が読めるか。

また、次の事柄についても留意した方がよい。

- ・車の掃除を念入りにしているか、ブレーキ系統のチェックを毎朝しているか。
- ・遅刻、欠勤をせず、勤務時間を守っているか。
- ・出先では、車両や中の物を盗まれないように気を付けているか。
- ・私用で車を使わないか。
- ・子供だけを乗せている場合でも安全運転をするか。

以上の点について満足でき、胸部レントゲン写真にも異常がなければ本雇用とし、同意書を作る。同意書は、一般的な事柄に関しては家政婦／夫のそれと重複するため、家政婦／夫の項を参照されたい。ここでは運転手にのみ該当する項目を掲げる。括弧内は一般的な例である。

- ・勤務時間は（8:00頃）から（18:00頃）までである。
- ・基本賃金は（4,300～4,600）ペソで、そのほか食事手当、交通費、超過勤務手当など諸手当をすべて含めておよそ（5,500～7,500）ペソである。
- ・超勤手当は1時間（20～30）ペソ、19:00を超えて働いた場合は夕食、または食事代として（30）ペソを支払う。
- ・休日は1週間に（1）日、国民祝祭日も休みとする。休日出勤は1時間につき（約30～35）ペソを支払う。
- ・特別休暇の有無（明示する）。
- ・運転手自身の不注意で事故を起こした場合の、運転手の責任分担額（明示する）。
- ・運転手は簡単な運転日誌をつける（走行距離など、車に関することはなんでも記載しておけば、車にトラブルが生じた場合の参考となる）。

そのほか、犬の散歩、庭の水撒きなど希望条項があれば付記するとよい。

(2) 日常管理

「6-1 一般事情」を参照のこと。

(3) 教育指導

「6-1 一般事情」を参照のこと。

(4) その他の留意点

使用人側に問題があって解雇するときは退職金は必要ない。しかし、運転手は家族を抱えていることが多く、実際には何日分かを支給することが多い。

中には、待機中にガソリンを抜いたり、車両を私用に使う人もいるため、信頼できる人だとわかるまでは、運転手に車に戻る時間を知らせない方がよい。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

業務により、賃金、手当は次のようになる（1ヶ月）。

料理係：3,000～4,000ペソと米、塩、砂糖、調味料、洗剤などの日用品。

掃除、洗濯係：2,000～3,000ペソと米、塩、砂糖、調味料、洗剤などの日用品。

子守係：約2,000ペソ。

マンションなどで1人だけを雇用して兼業してもらう場合はこれよりも高くなる。多くの家庭では、賃金のほか食料品や日用品なども支給している。

(2) 雇用

よい人がみつければ、フィリピン生活は有意義な楽しいものとなる。面接時によく観察し、条件をきちんと決めておくこと。子守については育児技術はもちろん必要であるが、それよりも気立てが優しく子供好きであることを重視するとよい。

面接時の質問・確認事項は次のとおりである。

- ・名前、現住所、生年月日、連絡先を本人に書かせる。
- ・独身か既婚者か、もし既婚者ならば子供の数、配偶者の仕事、彼らの住所。
- ・どの業務を希望するのか、経験年数、前の勤務先と勤務期間、その賃金額（高く言うことが多い）、退職理由。
- ・希望の賃金額。
- ・英語が理解でき（聞く・話す）、電話のメモがとれるか。

次に、以下のような雇用主側の条件を伝える。

- ・仮雇用期間は1～2ヶ月とする。必要であれば胸部レントゲン撮影をする。
- ・仮雇用中の賃金、食費額や本雇用後の賃金、食費額と、米、砂糖、油、醤油、スパイス、石けん、トイレトペーパーなどの支給の有無、ユニホームの貸与について（明確にする）。
- ・昇給率やボーナスの有無について（運転手の項参照）。
- ・休日は1週間に何日か（1日が一般的）、外泊は禁止か、休日の門限時間など（毎週土曜日などに外泊を許可する家庭も多い）。
- ・病気や怪我の時の対応（場合により雇用主が面倒をみることもある）について。

両者がこれらの事項に合意すれば仮雇用とする。胸部レントゲン撮影の結果に異常がなく、仮雇用期間中問題がなく、人柄や勤務態度などが気に入れば本雇用となる。

回虫駆除のため、仮雇用期間中に虫下しを飲んでもらってもよい。

同意書は、トラブルを未然に防ぐため、本雇用と同時に作成する契約書のようなものである。同じ同意書を2枚作成し、サインをもらい、雇用主、家政婦／夫が各々所持する。家政婦／夫用のものは使用人部屋の壁に張っておくのもよい。

次に掲げる雇用条件は、日本人社会の慣習のようなもので規定されているわけではない。したがって、これらを判断の目安とし、各家庭に合致した条件を適当に加減し採用すればよい。

- ・契約期間は2年以内とする。その後は合意のうえ延長する。
- ・雇用主の生活習慣に従う。
- ・基本賃金、食費、交通費（運転手のみ）を明示する（ボーナスや退職金は基本賃金を基に支給するので、食費などの諸手当は別項目にわけて決めた方がよい）。
- ・賃金は15日・30日の月2回払いとする。
- ・昇給は基本賃金の約10%程度を年1回か2回に分けて行う。
- ・雇用してから半年以上経っている場合、クリスマスに、ボーナスとして基本賃金1ヶ月分を支給する。
- ・雇用主の都合（帰国など）による解雇の場合は、退職金1ヶ月分程度を支給する。
- ・使用人の都合、または使用人が問題を起こして解雇する時は退職金は支給しない。
- ・休日は1週間に1日とする（7:00～20:00）。

- ・原則として賃金の前借りは許可しない。
- ・勤務時間中の長時間の私用外出は賃金カットをする。
- ・高価なものを壊した場合は賃金より差し引く。また物を壊したら必ず報告する。
- ・1年以上勤務した場合、2週間の有給休暇を与える。有給休暇をとらない場合はその分を支給する（買い上げる）。
- ・私用電話は緊急時を除き、原則として許可しない。
- ・米、醤油、砂糖、油、スパイス、石けん、トイレトペーパー、1年に2枚のユニホームを貸与する（辞める時に返却）。
- ・勤務時間は6:00～ 21:00頃までである。
- ・外泊は許可しない。
- ・クリスマスは全日、イースターは半日の休みを与える。その他の国民の祝祭日は平常通りの勤務とする。

そのほか、希望条件があれば付記すればよい（部屋に家族、親戚、友達を泊めないこと、口笛を吹かないことなど）。

家政婦／夫、運転手とも、本雇用と決めたら、各ビレッジのアソシエーションより Identification (ID) と称する身分証明書を発行してもらおう。使用人はこのカードがないとビレッジのゲートの出入りを禁じられることがある。

IDカードの発行には写真（縦1インチ×横1インチ）が2枚必要である。1枚は本人のIDカードに、もう1枚はアソシエーションが保管する。IDカード取得にかかる手数料および写真代は、雇い主が負担する場合もある。IDカードの有効期限は1年間である。退職時は必ずIDカードを返却してもらおうこと。

(3) 日常管理

まな板の乾燥、ふきんの消毒など台所用品の衛生管理を指導する。食器などはよくすすぐように指示すること（すすぎたりないと健康に害が出ることを説明する）。

料理を任せる場合、古い油をいつまでも使ったりすることのないよう注意すること。

物の正しい使い方を教える（例えば、包丁で缶詰を開け、まき割りもし、鶏の骨を切る人もいる。また、雑巾とふきんの区別など）こと。

まだ口のきけない幼児がいる家庭では、特に使用人との接し方に気をつける必要がある。言動が横柄であったり、些細なことで怒ったり、人前で叱ったりすると、家人の留守時などに幼児にあたる例がある。時には優しく労ったり、仕事ぶりを誉めるなど、相手を気遣う心のゆとりを持つことが必要である。

長期間留守にする場合は、お互いに誤解のないよう、貴重品・電化製品などはマスタールームの錠のかかるクローゼットなどにしまい、二重にロックしておくことよい。

1990年5月に行われたフィリピン主催のオリエンテーションにおいて、出席者からの質問が多かった使用人との問題について記すので参考にとよい。回答はあくまでも一例であり、目安にすること。

質問：使用人から前借りの依頼があったら？

回答：1ヶ月の賃金を超えない範囲で貸す。返済は分割払いにする。ノートに返済予定を記入し、返済毎にそれを消してサインをするなど双方にわかりやすくするとよい。その返済が完了しなければ次は貸さない。

質問：使用人が有給休暇をとって親元に帰っているが、2週間後に「1週間後でない」と帰れない」と電報があった。

回答：船などの都合で確かに帰れない場合もあるが、給料は差し引いてもよい。できれば、出発前に「2週間で戻らない場合は給料を差し引くこともある」旨を告げておくとよい。

質問：有給休暇で親元へ帰る場合、土産など持たせるべきか？

回答：物ではなく「何か買いなさい」といってお金を渡している。また、交通費を出している人もいる。また、何も渡していない人もいる。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

庭師は屋外の仕事になるので、特にレントゲン検査の必要はない。

面接での質問および取り決め事項は次のとおりである。

- ・名前、住所、生年月日、経験年数を聞く。
- ・賃金額、昼食代、スナックの有無について取り決める。
- ・勤務形態を定める。勤務日はなるべく家人が在宅している日がよい。いないと早く帰ってしまうことがある。庭が広くなければ隔週1回程度でもよい。
- ・勤務時間は8:00頃～17:00頃とする。
- ・賃金は1日150～200ペソ程度である。
- ・賃金支払い方法（毎回作業終了後か月末払いか）を決める。
- ・昇給は家政婦／夫、運転手と同様に、基本賃金の10%ぐらいの率で1年に1回、または2回に分けて行う。
- ・ボーナスはクリスマス時に支給する。雇用してから半年以上経っている場合は日当の2日分または4日分（週1回勤務の場合）、あるいはタオル、Tシャツ、お菓子などの現物支給でもよい。

留意点として、必ず仕事の指示を与える（さし木や消毒、または芝の雑草をとり除くなど）こと。作業終了後、仕事の結果を点検すること。庭側の戸締まりをし、干してある洗濯物にも注意（なくなることがある）すること。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

経済発展に伴い車両台数が増えており、交通渋滞はひどくなる一方である。また、マニラの公共交通機関は発達しているとは言い難く、所要時間が予測できる公共交通機関は無いに等しい。特に雨が降るとジープニーやバスの運行台数が減り、庶民の通勤に影響を及ぼす。したがって、当地の人々は1～2時間の余裕をみて通勤している。

邦人が公共の交通機関を利用することはほとんどないが、時間があればフィリピン人の友人同伴で試してみるとよい。

<国鉄 (Philippines National Railway: PNR) >

マニラから南北に長距離列車およびマニラ周辺で通勤列車(南北2路線のみで1時間に1本程度)を運行している。車内は清潔とは言い難く、ドアは閉まらず、故障も多い。車より時間がかかるため邦人はめったに利用しない。

<高架鉄道 (Light Rail Transit: LRT) >

1985年5月に(約15キロメートル)開通した、マニラ交通機関のエースである。北のモニュメント駅から南のバクララン駅までの18駅を30分で走る。料金は起点・終点からの1区間が1.5ペソであり、それ以外の区間は全て6ペソである。

朝夕の通勤時間帯は3分間隔、その他の時間帯は5分間隔で運行しており、1日35万人を運んでいる。車内は美しく安全であるが、駅周辺にはまだ危険なところもあり、夜間の利用は避けたほうがよい。

<バス>

マニラには350社のバス会社がある。なかでもマニラの大幹線エドサ通りでは大部分でジープニーの乗り入れを禁止していることもあり、数十社のバスが運行している。ほとんどの会社は日本製中古車を利用している。社内でスリの被害に遭った邦人の例があるので利用の際は注意すること。

長距離バスは安価で、ほとんどの都市と結ばれており、便利である。エアコン付きとエアコンなしの車両があり、予約が必要なこともあるので確認するとよい。車内は比較的安全で、2～3時間おきに停車、休憩する。

<ジープニー>

日本から輸入された中古のエンジンと、手作りのシャーシー、ボディーを組み合わせたフィリピン特有のジープタイプの乗り物である。よく整備されていないため公害の元凶になっているが、庶民の足として愛されている。路線上であれば、タクシーと同様、手をあげれば乗せてくれ、ストップの合図(天井をたたく。または「パラ」と言う)をするとどこでも降ろしてくれる。路線数はマニラだけで約750もあり、乗り慣れないとむずかしい。また運転手は英語を話したがらないので、意思の疎通はむずかしい。利用する際はフィリピン人の友人に同行してもらうとよい。料金は最初の4キロメートルが1.50ペソ、以後1キロメートルごとに50セントボが加算される。

<タクシー>

乗り方は日本と同様で、基本料金は500メートル7.5ペソ、その後300メートル毎に1ペソ加算される。エアコン車は料金プラス12.5ペソ、チップは料金の10%程度

である。外出先から利用する時は、ホテルやデパートなどの玄関でガードマンに呼んでもらい、チェックペーパーをもらう。

タクシーを利用する際は、安全のため次のことに留意すること。

- ・ビルやビレッジのガードマンに呼んでもらう。
- ・EMP、Good Man、TAI、HAYATT などの大手タクシー会社を選ぶ。
- ・万一に備え、Plate No. と、助手席にある運転手の I D (名前、住所、Tel) をメモしておく。
- ・なるべく 2 人以上の相乗りにする。
- ・深夜に 1 人で流しのタクシーに乗ってはいけない。

<トライシクル>

オートバイにサイドカーをつけたもので、決まったエリア内であればタクシーと同様に乗降できる。ドライバーは地域ごとに登録されており、比較的安全である。必ず乗車前に行き先を告げ、料金を交渉することが必要である。

<国内航空>

マニラを中心に主要都市間を運航しており、安心して利用できる。

<船>

比較的発達しているが、天候の影響を受けやすく事故の可能性も大きい。長距離フェリーを除いて、利用は勧められない。

(2) 自家用車を利用する場合

右側通行である。交差点の信号には、青信号なら全方向に行けるものと、左折は左折信号に従うものの二種類がある。後者の場合、青信号でも左折はできないため注意が必要である。なお、右折は基本的に常時可能である。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカー会社は、Hertz、AVIS、National Renta Car などの大手から、中小規模まで数多い。料金は各社異なるが、トヨタのクラウンクラスで 1 日当たり 2,000 ペソ程度 (運転手付き) である。なお、JICA 関係者は私用車を所有することになるので利用は稀である。

(4) 道路地図

フィリピン全土の道路地図として「Roadmap of the Philippines (100 分の 1)」、マニラの地図としては「City Map of Manila (1 万 2,500 分の 1)」、「Metro Manila Street Directory (1 万分の 1)」がある。これらはいずれも National Book Store にて購入できる。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

邦人が事故に巻き込まれた場合、フィリピン人の任意保険加入率が極めて低いことから、邦人に責任がない場合であっても、邦人の任意保険を使って修理しているのが現状である。

原則として事故現場はそのままの状態と保存しておく。近くにいる警察官に知らせるか、電話で最寄りの警察署に通報し、実況検分をしてもらうことが必要である。また、JICA 関係者は事故発生後速やかに JICA 事務所へ連絡すること。

その後、当該車両の運転手は警察署において事情聴取を約1時間受ける。この際ありのままを供述することが好ましい。警察官によって作成された報告書 (Police Report) は、保険会社に損害補償を請求する際に必要となるので、時間をかけて焦らずに対応することが得策である。

軽微な交通事故で相互の車両の損傷が少ない場合は示談も可能である。この場合は運転手 (フィリピン人) 同士で話し合ってもらった方がよい。日本人だとわかると当方に責任がなくても一方的にまくしたてられ、結局泣き寝入りになってしまうことが多い。特に相手がタクシー、ジープニー、バスの場合は要注意である。

けが人が出た場合は、まず負傷者を病院に搬送しなければならない。病院に電話で救急車を依頼するか、タクシーを使うことになる。救急車の呼び出し電話番号はメトロマニラ内では166番であるが、到着までに30分、時には1時間以上かかる。したがって、タクシーまたは最寄りの車で搬送する方が早い。

ハイウェイおよび主要道路では、ハイウェイパトロール隊が事故処理を行う。対処の仕方は日本と同じである。

なおメトロマニラ内の日本の110番にあたる緊急電話は7575(警察、首都圏本部)である。

(2) 救急病院

マカティにおける救急病院は次のとおりである。

Makati Medical Center

所在地: No.2 Amoroso Corner de la Rosa St., Makati

電話: 815-99-11

(3) 盗難

駐車時におけるカーステレオ、タイヤ、カバン、貴重品類の盗難が非常に多い。盗品が所有者に戻ってくる可能性はほとんどない。

車両の付帯設備であるカーステレオ、タイヤなどが盗まれた場合は、面倒でも最寄りの警察署に盗難届を出し、捜査官の実況検分を受けておいた方がよい。車両の盗難保険の補償請求の際、交通事故と同様に必ず捜査報告書 (Police Report) が必要となるからである。自ら被害状況を写真に撮っておくことも事後処理に有効である。

防犯対策は次のとおりである。

- ・ドアロックを忘れない。
- ・駐車は、常に運転手から見える位置にするよう指示する。
- ・駐車時は貴重品、カバン類を車内に放置しない。
- ・パスポート、金品などの貴重品は必ず自分で所持し、他人には任せない。
- ・車に警報装置をつけておく。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

「7-1 (2)」を参照のこと。

(2) 対処方法

交通違反の検挙は、まず車を道路脇に停めるよう指示される。次に免許証提示を求められ、違反内容が告げられる。その内容に納得できない場合は、けんか腰にならず、冷静に説明を求めることが大切である。違反が確認されると Traffic Citation

Ticket (TCT: 違反切符) が切られる。TCT には違反内容、罰金額、支払い先などが記載されている。

メトロマニラ内で車を止められた場合は、警官に免許証を渡す。警官侮辱罪で免許証を取り上げられることのないよう、穏やかに TCT を要求する。TCT をもらったなら、指定された期日に市役所の Traffic Operation Center (交通取り締まりセンター) で罰金を支払い、免許証を返却してもらう。また、Philippine National Bank もしくは Philippine Veterans Bank の各支店で支払うことも可能である。罰金の支払いは代理人でも可能である。

メトロマニラ以外で違反した場合は免許証は没収され、代わりに 3 日間有効の Temporary Operator's Permit (臨時運転免許証) が渡される。その有効期限内に違反した地域の警察に出頭しなければならない。罰金額は裁判所が決定する。

7-4 車の修理

(1) 部品

フィリピン輸出仕様の新車を日本で購入した場合、部品は各販売代理店で買い揃える必要がある。各社代理店がメトロマニラにあり、消耗部品は入手可能である。

(2) 修理工場

道路が悪く高温多湿であるため、タイヤの摩耗は早い。また、エアコンを頻繁に使うため故障が起きやすい。修理に出す際、車内からタイヤや工具などを出しておくこと。無くなったり古いものと交換されてしまうことがある。

日本メーカー指定工場は次のとおりである。

TOYOTA BEL-AIR, INC

所在地: 325-327 Sen Gil J. Puyat Ave., Makati M.M.

電話: 819-7481 to 86, 875-7661 to 66

NISSAN Metro Motor, INC

所在地: 2278 Pasong Tamo Ext., Makati M.M.

電話: 843-8011

MITSUBISHI

所在地: Ortigas Ave. Con. Roosevelt St., Greenhills, San Juan, M.M.

電話: 721-1481 to 90, 721-0336

Honda cars

所在地: South Super-Highway Magallanes Commercial Complex, Makati

電話: 833-4181 to 83

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

メトロマニラでの電話普及率は100人当たり約10台強であるが、全国平均では100人当たり2.14台と他のアジア諸国と比較して普及率は低い。

現在のところ定額料金制のため、電話機1台当たりの使用頻度は高く、1回の通話時間も長い。また、間違い電話も多い。

市外通話については、PLDT（フィリピン長距離電話会社）のサービス地域であれば、大抵ダイヤル直通が可能である。その他の地域へはほとんどがオペレーター経由となり、その場合は概して待時間が長い。

1995年 Smart、ICC、Globe、ETPI の4社が初めてPLDT以外の通信事業者としてメトロマニラ地区別に電話事業が許可され現在工事が進行している。

電話の架設に非常に時間がかかるため、最近では携帯電話が急速に普及してきている。

メトロマニラには6桁と7桁の電話番号が混在しており、7桁番号の電話は、NDD（国内ダイヤル直通サービス）と、IDD（国際ダイヤル直通サービス）を利用することができる。NDD、IDD サービスは申し込み後一週間程度で使用できる。工事費用は無料である。

6桁番号の電話ではNDD、IDD サービスは受けられない。そのうえ老朽設備のため混線、雑音が多い。邦人の多く住むマカティ地区のほとんどは7桁番号になっているが、住宅選定時には念のため確認することを勧める。

電話料金はビジネス用と住宅用で異なり、ビジネス用料金（月額）は住宅用より50%程度高い。いずれも市内定額制であり、使用度数とは無関係である。アパートや一戸建てでもビジネス用の電話が架設されている場合があるので、事前の確認が必要である。

1～2年以内には全て7桁に統一され、その際請求方法は日本と同様、通話回数と通話時間で計算されるようになる予定である。料金の支払いは指定電話局の窓口か、特定銀行窓口で行う。銀行口座からの自動引落とし制度もあるがまだ一般的ではない。

2ヶ月ほど滞納するとサービス停止の通知が届く。その指定日までに支払いがないと回線を止められる。

電話番号調べ（無料）……………114（メトロマニラ）、112（地方）

電話故障受付（24時間）……………173（修理：月～金 9:00～17:00、土・日 9:00～12:00）

修理は連絡後2日以内に来てくれることになっている。遅い場合は催促した方がよい。

(2) 国内電話

7桁番号でNDD サービス登録済の電話機からは約180の市町村へダイヤル直通電話が可能である。

その他の市町村へは109番でオペレーターを呼び出して市外通話を申し込む。場合によっては数時間掛かることもある。通話状態はあまりよくない。Person to Person Call、Station Call、Collect Call があるので、オペレーターに希望のコールを伝

える。料金は地域によって異なる。ダイヤル直通でマニラからセブに電話した場合、最初の1分間は6.85ペソ、以降1分ごとに6.15ペソである。請求書は入念にチェックすること。

携帯電話は、申し込みから長くて1週間、会社によってはその場で窓口で入手出来る。現在5社がサービスしているが、それぞれサービスエリアが異なる。用途によって会社を選択するとよい。

携帯電話のクローンによる被害が多発している。邦人も被害を受けており注意が必要である。国際電話機能を付加せずに使用するのも被害を防ぐ方法である。主な携帯電話会社は次のとおりである。

会社名	電話	備考
Pilipino Telephone Corp. (Piltel)	813-7373	最初に営業を開始した。PLDTの子会社でサービス範囲は広い。アナログ方式。
Smart Communication Inc. (Smart)	811-0211	アナログ方式。日本電信電話会社 (NTT) が出資。
Extelcom	634-0001	アナログ方式。
Globe	813-7373	デジタル方式。
ISLACOM	812-7719	デジタル方式。

無線呼び出しサービスもある。主な無線呼び出し (ペイジャー) 会社の電話番号は次のとおりである。

Easy Call.....815-9516

Pocket bell.....817-2213

Beeper819-1819

Digipage77-1659

Infopage636-1234

(3) 国際電話

国内電話とは対照的に国際電話事情はきわめて良好である。IDD (ダイヤル直通) とオペレーター通話があり、IDDの料金はオペレーター通話の約60%である。

国際電話業社はPLDTの他、ETPI、Philcom、Smart、Digitel、Globe、Islacom、ICC、PT&Tがある。希望する会社に接続申請をすると、PLDT加入電話からアクセス番号をダイヤルすることにより国際通話が可能である。接続は無料である。

IDD (国際ダイヤル直通) で日本にかけると、1分間 (基本料金) 1.75ドルで、その後6秒毎に0.13ドル加算される。料金には税10%がかかる。夜間割引、日曜割引がある。

IDDに登録していない電話は108をダイヤルしてオペレーターに申し込む。これには次の3通りの方法がある。いずれも請求時のレート (ドル規準) により当地通貨で請求がくる。

<Person to Person Call>

料 金：平日、日本にかけると3分間 (基本料金) 7.20ドル、その後1分毎に1.72ドル加算。プラス税金10%。

<Station Call>

料 金：日本にかけると3分間（基本料金）5.40ドル、その後1分毎に1.72ドル加算。プラス税金10%。

備 考：オペレーターに、はっきりとStation Callであることを告げ、相手の電話番号だけを伝えること。往々にしてオペレーターは相手の名前を聞いてくるが、その時はStation Callであることを再度告げるとよい。名前を言うとPerson to Person Call扱いで請求がくることがある。

<Collect Call>

備 考：相手が支払うことを確認してから接続される。料金は日本の料金による。

6桁の電話はIDD（国際ダイヤル直通サービス）に登録できない。しかし次のサービスの利用は可能である。

PLDT CAN サービス (Tel:892-1838~892-1840)

登録番号と暗証番号をダイヤルすることにより、IDDと同様のサービスが受けられる。国内長距離通話にも利用出来る。電話料金請求書を提示するなど、毎月ある程度国際通話をしていることを示す必要がある。

Philcom's Personal Direct Dialing (Tel:816-2851 818-6660 818-6650)

登録番号と暗証番号をダイヤルすることにより、IDDと同様のサービス（国際電話のみ）が受けられる。自分名義の電話でなくても、6桁、7桁いずれの電話からも利用可能であり、料金の請求は自宅に送られてくる。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

ETPI が国内外のサービスをしている。ただし国外のサービスは先方への送信のみである。

(2) テレックス

国内通信は、Philippines Telegraph and Telephone (PT&T) と Radio Communication of the Philippines Inc. (RCPI) の2社で扱っており、主要都市にサービスを提供している。

国際記録通信サービス（テレックスおよび電信）はETPI、GMCR、Philcom、Capwireの4社が扱っており、世界中の主要国際記録通信センターに接続されている。

(3) 電報

無電話町村が多いため、電報の利用頻度は高い。国内電報サービスはTELOF（国营通信機関）と、いくつかの民間通信会社によって行われており、そのサービス網は国内全市町村の約80%に及ぶ。電話受付はなく、打電したい時はオフィスまで出向くことになる。料金は、送り主、受取人の住所、氏名、なども含めた単語数で計算される。また、場所により配達料が加算される。

(4) インターネット

主なプロバイダは次のとおりである。各社の電話番号は市内番号案内（114）で確認できる。

Mosaic Communications, Inc. (MOSCOM)
Iphil Communications Network Inc.
Globe Telecoms GMCR, Inc.
Philippine Network Foundation, Inc.
Infocom Technologies, Inc.
Distributed Processing Systems, Inc. (DPSI)
IBM
Industrial Research Foundation (IRF)
EPICNET
Philippine Data Exchange

<利用料金の一例>

加入料……………85 ドル（登録時のみ。税込み）
使用料……………35 ドル／月（12時間まで。税込み）

現在のところ市内電話料金は定額のため、電話使用料を別途払う必要はない。

8-3 郵便

(1) 一般事情

郵便事情は以前に比べるとよくなっており、日本～マニラ間の郵便物は、どちらからも一週間ぐらいで届く。ただし、クリスマス時期には多少長くかかる。

書留が届いた場合、まず書留が届いた旨の通知書（Registry Notice）が郵便局から来るので、その通知書と、パスポート、IDカード、免許証のいずれか（身分を証明するもの）を持って指定の郵便局に受取に行く。

邦人が多く住んでいるマカティ地区には次の郵便局がある。

マカティ中央郵便局

所在地：Margarita Bldg. J.P. Rizal St. Makati

電 話：844-0150

受 付：月～金 8:00～12:00、13:00～17:00、土 8:00～12:00

備 考：郵便局が少ないため常時混雑しており、10～20分待たされる。

ほかに、簡易郵便局のようなものもあるので、アパートの管理人や使用人に訊ねるとよい。また、居住者の郵便物の投函を代行しているアパートもあるので、これも管理人に確かめるとよい。

日本への航空郵便の料金は8ペソからである。

小包が届いた旨の通知書が来たら、その通知書（通知書の裏に受取人のサインが必要）とパスポート、IDカード、免許証のいずれか身分を証明するものを持参し指定の郵便局へ行く。本人が行けない場合は代理人による受取が可能である。郵便局からの通知書の裏面にある代理受取欄に代理人の氏名、受取人本人のサインをして、代理人に本人のIDを預ける。小包の受取には10ペソの手数料が必要である。航空郵便小包は約3週間で到着する。

郵便の他に次のサービスが利用できる。

OCS

電話：817-8282

Federal Express

電話：833-7583～7589

DHL

電話：831-888、833-9242

(2) 課税

詳細は不明であるが、書籍、雑誌、衣料、食品など一般的なものには課税されないようである。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

新聞は多数発行されており、メトロマニラで発行されている新聞だけで20紙以上にのぼる。主な英語紙は次の2つである。

【Manila Bulletin】……比較的、経済商業関係に紙面をさいている。購読者は中産階級以上であり、政治面、求人広告面も充実している。月～金曜日は1部5～7ペソ、日曜日は付録が付き若干高い。

【Inquirer】……中産階級以上を読者としている。紙質がよく読みやすい。

その他の英語紙として【Today】、【Star】、【Chronicle】などがあげられる。

英語紙を購読したい場合は、近所の邦人などに信用のある新聞配達人を紹介してもらおうとよい。購読料の支払いは、配達人の所属する新聞販売店に問い合わせ、本物の配達人であることを確認してからにすること。新しく入居したところに偽の配達人が勧誘にきて、6ヶ月あるいは1年分の新聞代を持って行かれた例がある。したがって、なるべく短期払いにした方がよい。配達時間が遅い、配達してくれないなど苦情があれば、新聞販売店に電話で連絡するとよい。

タガログ語紙として【Isyu】、【Balita (【Manila Bulletin】のタガログ語版)】がある。また、当地発行の日本語紙として次のものがある。

【日刊マニラ新聞 (旧共同ニュース・デイリー)】……共同通信から配信された記事と、独自取材によるフィリピンで起きた出来事を掲載している。これによりオンタイムで日本のニュースと翻訳されたフィリピンの主要なニュースを併せて読むことができる。政治、経済、社会情勢だけでなく、プロ野球、大相撲、Jリーグ、高校野球などのスポーツニュースもある。毎朝自宅に配達される。購読は下記へ申し込む。

日刊マニラ新聞

所在地：4/F Pacific Star BLDG. Sen. Gil J. Puyat Ave, Ext. Cor Makati, Ave.
Makati M.M. (JICA事務所がはいっているビル)

電話：812-3171、812-2943、812-2948

購読料：1ヶ月650ペソ (約2,600円)

(2) 本邦日刊紙

購読は下記へ申し込む。半日～1日遅れで届く。

Republic Courier Service Inc. (OCSの子会社)

所在地：Unit G4 & G5, Ground Floor, First Cityland Condominium, Rada St.,
Legaspi Village, Makati

電話：817-2891、817-8282～83、817-9376

備考：当日の朝刊と前日の夕刊が、夕方と一緒に配達される。また、雑誌、月刊小説誌なども注文できる。購読料は日本の約3倍である。

(3) 欧米紙

【New York Times】、【Le Monde】なども、上記のRepublic Courier Serviceに注文可能である。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ放送局の多くは民営であり、マニラ周辺に 30 局、地方に約 170 局ある。

F M 放送はマニラ周辺に 19 局、地方に 41 局ある。

F M、短波を受信できる、電池式の小型ラジオがあると便利である。

主なラジオ局としては、DZBB(594KHz)、DZMM(630KHz)、DWIZ(800KHz)、DZXL(558KHz)、DZRH(666KHz)、DZNN(846KHz)がある。

日本語放送（フィル・ジャパン・ナウ：1242KHz 月～金 6:00～7:00）があり、当地の生活情報や日本の情報を入手できる。

(2) ラジオジャパン

ラジオジャパンは、フィリピン時間の毎偶数時には日本語で、毎奇数時には英語で放送している。午前中はアンテナがなくても聴取できるが、午後（特に 18 時以降）はアンテナがないと受信状態が悪い。周波数は季節によって変更されるため、最新の情報をチェックしておくといよい。

N H K 国際局編成部

住所：〒150-8001 東京都渋谷区神南 2-2-1

電話：03-3465-1111

また、インターネットでも番組表を含む情報提供サービスが行われている。

<http://www.nhk.or.jp/rjnet/>

(3) 聴取可能なその他の外国語放送

該当情報なし。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

テレビ局は国営が 1 局とマニラに民営 6 局がある。民営局は地方にそれぞれネットワーク局を有している。

主なチャンネルは ABS-CBN (2ch)、国営 PEOPLES TELEVISION (4ch)、ALLIED BROADCASTING CORP (5ch)、GMA RADIO-TV ARTS (7ch)、RADIO PHILIPPINES NETWORK (9ch)、ISLANDS BROADCASTING CORP (13ch)、SOUTHERN BROADCASTING CORP (21ch) である。すべてカラー放送である。

雨が降ると受信状態が悪くなるため、ケーブルテレビを契約するのが一般的である。費用は取付料がチューナー込みで 4,000 ペソ、視聴料が月額 400～500 ペソである。

ケーブルテレビでは、日本語放送（NHK ワールド、WINS、マニラ首都圏のみ。番組の約 3 割が日本語）が 2 チャンネル放送されている。

(2) テレビ受信

日本と同じ NTSC 方式である。ただし周波数帯が異なるため、日本から持参した受信器では受信できないチャンネルがある。廉価で販売されているので、当地で購入することを勧める。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

主にアメリカ映画やタガログ語映画を上映している。料金は大人、子供共通で1等席が35ペソ、2等席が25ペソである。字幕、吹き替えはない。アメリカ映画の新作は比較的早い時期に上映される。

映画館はメトロマニラだけで約70館以上あり、うち半数がアメリカ映画を上映している。マカティ地区の代表的映画館は、Makati Cinema Square、Green Belt Square、Quad Theaterなどで（1カ所に4館が並んでいる）駐車場も完備されている。

次のところでは映画祭と銘打って、ヨーロッパ映画や邦画が上映されることがある。

Manila Film Center

所在地：Roxas Blvd., Cultural Center Complex

開館時間：8:00～17:00

(2) 劇場

学生演劇が盛んであり、各有名私立大学（UP、UST、De La salle、Ateleo など）で定期公演されている。日本で以前盛んだった赤テント、青テント風の演劇である。

また、オペラ、クラシック、バレエなども楽しむことができる。これらのチケットはSM内、メガモール内のプレイガイドで発売されている。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

日本書籍を扱っている書店は一軒もないが、日刊マニラ新聞内の「びすく社」でフィリピン関係の書籍が購入できる。また、日本食料品店に週刊誌や文庫本が若干置かれている。

(2) 書店

National Book Store

本店（リサールアベニュー）……電話：49-43-06～9

クアッドカーパーク店……電話：86-87-52

クアッドアーケード店……電話：86-57-66

備考：このほかにもメトロマニラに11店舗ある。フィリピン最大の書店で、教科書は小学校用から大学用まですべて揃う。

Good Will Book Stores

ノースモール店（MCC内）……電話：85-72-09

備考：ほかにメトロマニラに5店舗ある。

Alemar's

ノースモール店（MCC内）……電話：85-67-35

G. Miranda

本店（C.M.レクト）……電話：731-1516

備考：洋書、特に理工学系の図書は豊富である。

La Solidaridad

所在地：パードレ・ファウラ、エルミタ地区

備考：フィリピン、東南アジア関係、人文科学、社会科学関係の本が多い。

MACROMIND

所在地：Mega Mall 3階

備考：コンピュータ関係の図書が多い。

下記に注文すれば日本の週・月刊誌を配達してもらうことができる。ただしかなり割高である。

OCS (Manila Office)

所在地：Unit G4 & G5, Ground Floor, First Cityland Condominium, Rada St.,
Legaspi Village, Makati

電話：17-8263、817-9376

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

134種とも186種ともいわれている当地語に英語が加わり、複雑な言語状況は邦人の想像を超えるものである。生活するには、英語とタガログ語の両方ができれば理想的である。まず必要最小限のサバイバル・イングリッシュは不可欠である。ただし、英語はフィリピン人にとっては外国語にすぎない。フィリピン人の素顔を少しでも知りたければ、タガログ語を勉強することを勧める。タガログ語を一言、二言話し始めると、今まで見えなかったものが見えてくる。タガログ語は日本語に似た音が多く、同じアジア人なのだと実感できる表現も少なくない。また、タガログ語を知っていると、生活上便利なことが多い。

タガログ語などが習える学校は次のとおりである。

Philippine Cultural Communication Service Corporation (PCCS)

所在地：Rm. 201 Plywood Industries Bldg., T.M. Kalaw St., Ermita, Manila

電話：594-885

備考：JOCVをはじめ、アメリカの平和部隊など外国ボランティアの語学教育を一手に引き受けている機関。

Language International

所在地：926 Pasay Rd., Makati

電話：810-7971～72

授業料：4,500ペソ（30時間）

備考：英語、タガログ語のほかにスペイン語、フランス語、ドイツ語、アラビア語、日本語、中国語（福建語と北京語）も開講。

Speech Power

所在地：Joshua Bldg. 932, Aurora Blvd. Cubao

電話：911-0832

授業料：2,000ペソ（24時間）

備考：英語専門のスピーチ・クリニック。子供から、上級スピードリディングに至るまで様々なクラスがある。

前述の機関のほか、各国大使館の広報文化センターにあたるところでも、その国の言葉を勉強することができる。スペイン語は Centre Cultural de Espana、フランス語は Alliance Francaise、ドイツ語は Goethe Institute で開講されている。また、これらは定期的に自国の映画やアーティストのコンサートなど文化的な行事も催しており、語学学習を通じて各国に関する知識も深めることができる。また、異国の地での限られた交際範囲を広める糸口ともなる。

Centre Cultural de Espana

所在地：3rd Floor Grepalife Bldg. 221 Gil J Puyat Ave., Makati

電話：89-29-89

備考：3世紀にわたるスペイン統治の影響により、スペイン語をフィリピンの言葉にとり入れている場合が多々ある。スペイン語を知っている人がタガログ語を聞くと、スペイン語からの語彙の多さに驚く。

Alliance Francaise de Manila

所在地：2nd Floor Keystone Bldg. 220 Gil J Puyat Ave., Makati,

電話：813-2681

授業料：コースによる。1,025 ペソ～1,800 ペソ

備考：フランス語はマニラで最も人気のある外国語である。本国で作成された学習用のスライドとテープを用いての授業。講師陣のほとんどがフランス人である。

Goethe Institute

所在地：687 Aurora Blvd., Quezon City

電話：722-4671～73

授業料：1,500 ペソ、テキスト代 480 ペソ

備考：かなり充実した図書館を持ち、映画やコンサートのほか、各種展示会やセミナーなども活発に主催している。

(2) 家庭教師

家庭教師を紹介する組織は特にないが、英語の家庭教師は学校などを通じて比較的容易に探すことができる。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

音楽、美術、工芸、演劇、映画などが盛んである。フィリピンの民俗的なものに限らず、外国からの催し物が多くみられる。専門情報誌や新聞などに広告があるので、SMやランドマークなどにあるプレイガイドでチケットを購入する。

主な博物館、美術館は次のとおりである。

National Museum

電話：527-1215

開館日：月～土曜日の 9:00～17:00

入場料：無料

備考：フィリピン全土から発掘された土器、化石を展示。

Ayala Museum

電話：812-1191～97

開館日：火～日曜日の9:30～17:30

入場料：学生……………10.00 ペソ

学生以外……………30.00 ペソ

観光客……………60.00 ペソ

備考：フィリピン史をミニチュアで再現した Diorama がある。

CCP Museum of the Humanities

電話：832-1125

開館日：火～日曜日の9:00～17:00

入場料：学生……………10.00 ペソ

学生以外……………20.00 ペソ

備考：少数民族に関する資料が多数ある。

Lopez Memorial Museum

電話：631-2425、634-2417

開館日：火～土曜日の8:30～17:00

入場料：25.00 ペソ

備考：故ロベス大統領が所有していた絵画、ホセ・リサール直筆の手紙など。

Metropolitan Museum

電話：832-3645

開館日：月～土曜日の10:00～18:00

入場料：20.00 ペソ

備考：主にフィリピン内外の近代絵画の展示。フィリピンの通貨の歴史、世界の貨幣のコレクションがあるコイン博物館と併設。

(2) 日本友好協会などの有無と活動の内容

比日協会 (Philippines-Japan Society) とその資金援助団体である比日友好財団 (Philippines-Japan Friendship Foundation) が、数々の比日友好団体の活動を援助している。

主な団体には、Philippines-Japan Ladies Association (PJLA)、Philippines Federation of Japan Alumni (PHILFEJA)、Asean Council Japan Alumni (ASCOJA) がある。

前述の比日協会をはじめとする5つの団体の事務局は、The Philippines-Japan Friendship Center (Dominion Bldg., Pasay Rd., Makati) にある。このセンターには100人収容の Philippines-Japan Friendship Hall があり、種々の催し物に利用されている。

各団体は、種々の日比交換留学のプログラムおよび文化団体の相互訪問の後援、生け花、茶、盆栽などの文化サークル活動の助成を行っている。

日本人会 (6th Floor, Jaycem Bldg., 104 Rada St., Legaspi Village TEL: 8153559) ではハンディクラフト・クラブ、英会話教室、レディース・テニス、レディース・ゴルフなどの活動を行っている。詳細は直接問い合わせるとよい。

(3) その他の文化活動、文化施設

メトロマニラにはフィリピン文化センターコンプレックス [Cultural Center of the Philippines (CCP) Complex] がある。これはマニラ湾を埋めたてて造られた広大な文化地区であり、次の施設がある。

- ・ CCP大ホール (2,000人収容)、小ホール (402人収容) ……音楽会、演劇、バレエなどが催される。
- ・ 国際会議場
- ・ フォークアート劇場
- ・ 国際貿易センター……数々の貿易見本市が開かれる。
- ・ フィリピン商業展示会……フィリピンの手工業製品、民芸品などの展示。
- ・ デザインセンター……月～金曜日の8:00～17:00、入場無料。
- ・ Manila Film Center……国際映画フェスティバルなどが開かれる。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フィルムは、プリント用、スライド用ともコダック、フジなどの製品が販売されている。24枚撮りフィルムの価格はプリント用75ペソ、スライド用100ペソである。

DPEサービス店は各所にあるが、一定の濃度で現像するため、美しい仕上がりになるとは限らない。現像代は1本25ペソ、焼付代は1枚3.75ペソである。レンズフィルター、三脚などのカメラ用品は大抵のカメラ店で販売されている。また、カメラ用水銀電池、ストロボ用アルカリ電池も販売されている。

(2) ビデオセット

該当情報なし。

(3) 各種テープ

タガログ映画、アメリカ映画などを扱っているビデオショップが市内に多くある。料金は1本25ペソ/日である。また、日本のテレビ番組や邦画を取り扱っているところがある。詳細は下記に問い合わせるとよい。

FOUR WINDS KKSC……電話：815-8651

金沢 Restaurant

録音テープの価格は1本110～130ペソである。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

フィリピン人は音楽を愛する国民である。したがって仲間内のパーティーでは、それぞれが歌い、ダンスを踊りながらにぎやかに楽しく過ごすのが常である。

音楽の催し物は前述のCCPホールで開催されることが多い。また、CCPではJCCI主催による各種芸術プログラムが生まれ、日本を含め海外から演奏家、舞踊チームが訪れ、公演することがある。

(2) コーラス、演奏グループ

日本人会にはコーラスグループ「ラ・メール」がある。

(3) ピアノなど

<音楽教室>

ヤマハ音楽教室

所在地：G.A.Yupangco & CO. INC. (Main Office)

電話：899-95-95

所在地：2320 Pasong Tomo Extension, Makati Metro Manira

電話：819-74-53、819-74-87、815-26-96

ビクター音楽教室

所在地：Marfin Arcade 1022, Pasig Rd.

電話：817-3993、817-9093

鈴木メソッド

所在地：East Mandaluyon City

電話：817-3993、817-9093

授業料：鈴木式ピアノ……………レッスン 16 回で 2,875 ペソと登録料 100 ペソ

クラシックピアノ……初級は 2,760 ペソと登録料 100 ペソ

中級は 3,420 ペソと登録料 100 ペソ

上級は 4,320 ペソと登録料 100 ペソ

鈴木式バイオリン……レッスン 16 回で 3,165 ペソと登録料 100 ペソ

この他、ピアノ、バイオリンの個人レッスンをしてくれる先生も多数いる。子弟が学校や幼稚園へ通っている邦人に相談すると紹介してもらうことができる。

(4) CD、レコードなど

ミュージックテープは、各地にあるナショナルブックストアやシューマート、ルスタンスなどのデパートで購入できる。クラシック、ポピュラー、カントリー・ウェスタンなど様々なジャンルがある。

チャイナタウンに行けば、台湾や香港から輸入された中国語で歌われた日本のヒット曲のテープが手に入る。

(5) 民族楽器

該当情報なし。

(6) その他の楽器

マカティより車で 30 分ぐらい南へ下ったところにラスピニヤスの町がある。この町の教会に約 160 年前に作られたという竹製のオルガンがあり、毎年 2 月の第 1 週に Bamboo Organ Music Festival が行われる。いちど聴いてみる価値はある。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

(1) 手芸

民芸品として、貝細工、カラバオの骨をはめ込んだ木製品、刺しゅう製品、民芸風織物、籐製品、南洋真珠、木製の楽器などがある。これら民芸品を見たり購入したりするのも当地の楽しみのひとつである。主な店は次のとおりである。

Silahis Arts & Artifacts

所在地：El Amancer Bldg., 744 Gral, Luna St., Intramuros, Manila (サン・オーガスティン教会のすぐそば)

備考：3 階には Art Gallery もある。

Tesoro's Exclusive Philippine Handicrafts

所在地：1335 A. Mabini, Ermita, Manila

電話：50-3931

備考：マニラ最大の民芸品チェーンの本店。

Mananzan Handicrafts

所在地：2205 Roxas Blvd., Manila

ほかに、ルスタンス、ランドマーク、各ホテルのアーケード内にもある。

(2) 絵画、美術工芸

優れた絵画のほとんどは個人が所有している。時折、個人コレクターが展覧会を開いているので、興味があれば新聞でこまめにチェックするとよい。

推薦できる美術館は次のとおりである。

美術館	所在地	電話
Varugas Museum	ケソン・シティー、フィリピン大学内	
Ateneo de Manila Gallery	Ateneo University, Loyola Hights, Quezon City	99-87-21
Lopez Memorial Museum	Meralco Ave., Corner Pektite Rd., Pasig. Chronicle Bldg. (1階)	673-5418
Ateneo Art Gallery	Ateneo de Manila Library, Katipunan Ave., Quezon City	99-87-21
Galerie Bleue	Rustan Bldg., MCC Makati	88-14-26
Gallery Terrasse	3rd Floor, Manila Hilton	57-37-11
Green Hill Art Center	Ground Floor, Greenhills Mansion Annapolis St. San Juan	
Hiraya Gallery	530 U.N. Ave., Ermita, Manila	59-42-23
Luz Gallery	L.V. Locsin Bldg., Corner Makati & Ayala Aves., Makati	815-6906
Main Gallery	Cultural Center of the Philippines, Roxas Blvd., Manila	57-39-61

10-8 趣味

(1) 園芸

フィリピン人は草花が好きな国民である。ケソン・シティーのEDSA沿いや、少し遠くなるがタガイタイに行く沿線で、様々な種類の観葉植物や花が安く購入できる。マカティ市内にも扱っている店はあるが、おおむね高い。苗木店やデパートには、鉢、用土、肥料、農薬が販売されている。

熱帯地域にいるチャンスを活かしてパイナップル、パパイヤ、ブーゲンビリアなど熱帯の植物を栽培してみるのもよい。ランの生育にも適している。

(2) 釣り

日本ほど一般的ではない。メトロマニラ周辺ではあまり適した場所はないが、リゾート地に行けば道具もあり、バンカー（小舟）をチャーターして楽しむことができる。また、旅行会社に頼んでおけば、地方でトロリングを楽しむことも可能である。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

該当情報なし。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

遊園地として次のものがある。

Enchanted Kingdom

所在地：Sta Rosa, Laguna

入場料：大人 300 ペソ、子供（2 歳以上）270 ペソ。

備考：フィリピンで最初の本格的な総合遊園地。

フィエスタ・デ・カーニバル（屋内）

所在地：Cubao, Quezon City

電話：921-6886

備考：日本でいえばデパートの屋上にある遊園地のようなところだが、規模は大きくジェットコースターもある。

(3) ディスコ、カラオケ

マニラには多くのナイトクラブ、カクテルラウンジ、カラオケバー、ディスコがある。多くは明朗会計であるが、なかには危険な店もあるので注意が必要である。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

様々な特徴のあるコースを手軽に楽しむことができる。全体的に手入れがされており、日本の平均的なコースに比べて難易度は高い。料金（Guest, Visitor）はゴルフ場によるが、1,000 ペソ～1,500 ペソぐらいである。ボニファシオゴルフコースとビリアモールゴルフコースを除き、週末はメンバーの同行が必要である。

マニラゴルフコース……本格的メンバーシップコースであり、メンバー同行でなければプレーできない。邦人では商社の支店長クラスや大使がメンバーになっている。伝統、格式のあるゴルフ場である。

ボニファシオゴルフコース……陸軍基地内にある。中心部から近いこともあって、週末は大変混雑する。

ビリアモールゴルフコース……空軍基地の中にある。平坦なコースではあるが、グリーンの状態、フェアウェイのメンテナンスの点で、公営ゴルフ場の中では上位に位置する。ボニファシオゴルフコース同様、週末は大変混雑する。

ワクワクゴルフコース……本格的なメンバーシップコース。メンバーの同行が必要である。株主のメンバー（プレーしない人）が、自分のプレイングゲストとして紹介する制度があり、空きがあればメンバー並の料金でプレーできる。詳細はジェネラルマネジャー室へ問い合わせる。

キャピトルヒルズゴルフコース……日本的な起伏の多いゴルフ場である。周辺は住宅に囲まれている。

バレーゴルフコース……メンバーシップコース。狭いフェアウェイ、林などを多くとり入れた日本的なコースである。会員権については事務所（電話 665-8565）に問い合わせるとよい。

タットフィリピナスゴルフコース……メンバーシップコース。起伏に富んだ大きなグリーンが特徴である。

カンルーバンゴルフコース……メンバーシップコース。ココナッツツリーの林の中に設計された堂々たるコースで、水はけがよく雨季でも十分プレーできる。プレーのみの会員権を販売しており、マカティの事務所（電話 88-34-02,815-6765）に出向いて相談すれば要領を教えてくれる。プレーイングライトは11~12万ペソ（年間権利料6~7万ペソ、デポジット2万ペソ、登録料3万ペソ、1995年8月現在）で毎月の会費が1,400ペソである。

サンタエレナゴルフコース……メンバーシップコース。平坦ではあるが非常にトリッキーである。

サウスウッドゴルフコース……メンバーシップコース。池が多い。

オーチャードゴルフコース……メンバーシップコース。1995年にPGAツアーが開催された。芝の状態などはフィリピンで最高ランクに位置する。

アラバンゴルフコース……メンバーシップコース。高級ビレッジの中にあり、距離はないが池や林が各所にある。スライサーやフッカーにとってはスコアがまとまらないコースである。

打ちっ放しはドライビングレンジといい、ボニファシオコース、ヴィリアモールコース、スーカットにある。ボール価格は40個1箱で30ペソ程度である。ティーボーイを1箱につき10ペソほどで頼むことができる。また、レッスンプロが基本から教えてくれる（1時間300~400ペソ）ので、頼んでみるとよい。

ゴルフショップは数店あり、品揃えはまずまずである。

ウェアも当地で購入可能であるが、日本の夏物を数枚持参した方がよい。日差しが強いため、長袖、長ズボンも必要である。また、日傘も必需品である。日差しを反射させる銀色の素材のものが有効である。日本で購入して持参するとよい。シューズは、雨季が長く使用頻度も高いため、少なくとも2足は必要である。

<プレー上の注意点>

酷暑の中でプレーするため、水分を取りすぎて胃腸の不調を訴えることがある。水分とともに塩分も取り、体内の塩分濃度を維持していくと渴きが止まるようである。

害虫、ヘビによる被害はあまり聞かないが、深いラフでは注意した方がよい。

1プレーヤー1キャディーが一般的である。頻繁に行く人であれば、信頼できるキャディーを指名した方がプレーがスムーズである。ただし、コースによっては指名できないところもある。

(2) テニス

テニスコートは容易に借りることができる。料金は多少の変動があるが、日本と比べてかなり安価である。平日はおおむね空いているが、電話で確認してから行くとうよい。土、日曜日は混むので予約をする必要がある。また、朝早くから営業しているので毎日の早朝テニスも可能である。

道具類はスポーツ店に豊富にあり、ラケット、ボール、シューズなどを揃えることができる。価格は日本と同様か、少し安い程度である。

(3) 水泳

邦人を中心に、大使館員、JICA 関係者、商社マンなどがダイビングチームを作っているのので、興味のある方は参加してみるとよい。熱帯魚、サンゴを天然のまま観賞できる理想的な環境が多々ある。具体的には旅行代理店に問い合わせるとよい。

マニラ市内の主なダイブショップは次のとおりである。

Dive Center Inc.

所在地：2172 B Pasong Tamo

電話：863-194、873-646

Dive Adventure Planning

所在地：2169 Int. 4. F. Reves St., Malate

電話：571-657

(4) その他のスポーツ、用具、ウエア

バスケットボールが盛んであり、テレビでも毎晩のように放送されている。バスケットコートは至る所にあり、大抵の職場にもあるので参加すれば歓迎される。

ボーリングも盛んである。1プレイ 45 ペソ、貸靴代 5 ペソで楽しめる。日本と同様にコンピュータスコアのボーリング場も登場している。

AMF-PUYAT Bowling and Billiards

ASTROBOWL

所在地：Magallanes Commercial Center, Makati

電話：833-56-71、833-69-02

SUPERBOWL

所在地：Makati Cinema Square, Pasong Tamo, Makati

電話：818-02-39、818-22-38

SM Megamall 内

(5) スポーツクラブなど

一部のスポーツクラブは会員権が高価であり入会は困難である。

利用可能なスポーツクラブ（主にマカティ地区）は次のとおりである。

Makati Shangri-La Hotel Health Club

所在地：Ayara center, Makati

電話：813-88-88

利用時間：6:00～22:00

会費：18,150 ペソ／年＋3,300 ペソ／3ヶ月

備考：プール、テニスコート、ジム、マッサージルーム、サウナ、ジャグジーの設備がある。マカティ地区内では設備・サービスともに最高であるが、会員になるまで最低6ヶ月はかかる。

Mandarin Oriental Hotel Health Club

所在地：Makati Ave., Makati

電話：750-88-88

利用時間：6:00～22:00

年会費：19,709 ペソ／年

備考：プール（大人用・子供用ともに小さめ）、ジム、サウナなどの施設がある。やや狭い。

Inter-continental Hotel Clark Hatch Fitness Club

所在地：Ayara center, Makati

電話：815-97-11

利用時間：6:00～22:00（月～金曜日）、8:00～20:00（土、日曜日）

会費：24,200 ペソ/年

備考：ジム、プールなどを利用できる。

10-11 子供の遊び

子供達の遊び場は限られている。各ビレッジの公園で自転車遊び、キックベース、野球、サッカー、ローラースケートをするか、暑いこともあって家で遊ぶことが多い。

男の子はプラモデルを作ったり、ファミコンに夢中である。ビデオ鑑賞は男女ともに人気がある。また、「お泊まりごっこ」と称し、週末にパジャマ、着替え、洗面用具を持って互いの家に泊まりに行ったりしている。

プレイ・グループ（5～6人単位の小さなグループ）があり、自宅を順番に開放して幼児達を遊ばせている。その間、母親らはおしゃべりを楽しむ。

子供のお誕生日などのプレゼントは当地でも手に入る。高いが日本製品もある。

自転車は日本から持参するか、帰国する人から譲り受けることが多い。当地で輸入品も購入できる。国産品は壊れやすく、勧められない。

子供の遊びに関する親の注意事項として次のことがあげられる。

- ・ 友達の家には車で送り迎えをするが、行き先をはっきり知っておくこと。また迎えに行く時間もはっきりさせておくこと。
- ・ 自転車での移動はビレッジ内だけにさせる。
- ・ 子供だけで映画館に行かせない。
- ・ 当たり前のことであるが、周りに邦人が多くても、「フィリピンは外国であり、決して日本と同様ではない」ことを十分認識することが肝要である。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

<銀行口座を新規に開設する場合>

銀行窓口でパスポートを持参して申し込む。外貨口座（ドル）と現地通貨（ペソ）口座がある。外貨口座は開設後 15 日間は引き出せないで当面の生活に要する現金を残して預金すること。

多くの銀行では外貨の日額最低残高の設定はしていないが、シティバンク（ドル口座のみ）などは、日額最低残高が 10,000 ドルとなっている。これを下回ると手数料がかかる。

ペソ口座には普通預金と当座預金がある。日本と違い当座預金を簡単に開設することができる。これらは個々に開設することができるが、通帳は普通預金しか発行されない。同じ銀行で普通預金と当座預金の口座がある場合、当座預金の残高を常にゼロとしておき、小切手発行後の引き落としの際、普通預金から自動的に振り替える制度もある。また、定期預金の制度もあり、日本と比べ利率がよい。当座預金にも利息の付くものもある。外貨口座より現地通貨口座の方が、より利率が高い。

<銀行口座を閉鎖する場合>

銀行窓口に出向き口座閉鎖の旨を告げると、大抵はその場で解約できる（解約の理由は問われない）。ただし、外貨口座に残高が多いと、外貨の用意ができるまで数日かかる場合がある。したがって外貨口座の解約は時間的余裕をもって行うこと。

<日本への外貨送金>

電信送金と郵便送金の 2 種類がある。現在は電信送金が一般的で、約 3 日で日本の口座に入金される。日本国内への送金はドルで行い、口座に入金される時点で円に換算される。送金手数料は送金額に関係なく定額である。

11-2 コンピュータ

IBM 純正機、IBM 互換機、Apple 製品など様々なコンピュータの入手が可能である。プリンタなどの周辺機器も購入できる。当地で購入できる製品は英語 OS であるため、日本語環境にしたい場合は日本語 OS とソフトを持参してインストールしなければならない。この際、プリンタとの相性がよくない場合があるが、メーカー保証の対象にはならないので注意すること。修理は基本的なものであれば可能である。

11-3 美容院・理髪店

有名なヘアデザイナーが経営する一流美容院から、店舗を構えず用具一式を手に出張サービスを行う庶民的なものまで、さまざまな形態・料金の美容院がある。美容院の多くは理髪店も兼ねている。

質を問わなければ、低料金でサービスを受けることができる。フィリピン文化に早く慣れるためにも、口コミで紹介された庶民レベルのサービスの利用を勧める。

セット、カット、パーマ、シャンプー、マニキュア、ペディキュア、フェイシャル、化粧などのほか、全身美容を行っているところもある。また、マニキュア、ペディキュアについては、出張サービスを行っている店もある。

料金は店によって大きく異なるが、カット 150 ペソ、パーマ 500 ペソ、シャンプー 150 ペソ、マニキュア、ペディキュア 100 ペソが平均的である。

理髪店も美容院と同様、一流店から空き地での営業まで、さまざまなレベルの店が多数ある。日本と同様のサービスのほかに手足のマニキュア、マッサージなどが行われている。

概してホテルにある店は高く（400 ペソ程度）、市内の平均的な理髪店では40～100ペソぐらいである。

美容・理髪用品については、資生堂、カネボウ、外資系メーカーの化粧品およびドライヤーなどの整髪用品は入手できる。ただし、愛用のものが見つかるとは限らないので当座のものは持参するとよい。自宅で理髪をしたい人は理髪セットを持参するとよい。

11-4 マッサージ

料金は店により異なるが、500 ペソ前後が平均的である。また、マッサージやフェイシャルの出張サービスもある。

代表的なマッサージ店は次のとおりである。

OLYMPIA REFLEXOLOGY CENTER

所在地：The Olympia Bldg., Makati

電 話：817-95-09

SHIATSU REFLEXOLOGY & FITNESS CENTER

所在地：Regines Condmn, 8429 Kalayaan Ave. Makati

電 話：895-34-71

Makati International Health, SPA

所在地：2178 Pasong Tamo, Makati

電 話：819-57-22

BACHEL'S SAUNA & MASSAGE

所在地：2112 Roxas Blvd. Luz Bldg, Pasay city

電 話：831-91-25

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

約7,000の島々からなる当国には魅力的な観光地が点在しており、治安状況の改善に伴い国内、海外からの観光客で賑わっている。

ただし、ミンダナオ島西部についてはイスラムゲリラ組織との和平合意、暫定自治政府成立後も混乱が予想され、ザンボアンガ、コトバトなどは避けた方がよい。

その他の地域は概ね治安状況もよいが、金銭目的の誘拐は時々起きており、観光旅行といえども十分に警戒する必要がある。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

各観光地のポイントは次のとおりである。詳しい情報は最寄りの旅行代理店から入手するとよい。

<マニラ市内>

スペイン統治時代の遺跡をはじめ、多くの歴史的見どころがある。☆の数は参考までに筆者の推薦度を表した。

【 Rizal Park (リサール・パーク) 】☆☆

フィリピン独立を先導した国民的英雄ホセ・リサールの記念像(Rizal Monument)がある、広大な芝生と噴水が美しい公園。ルネタ・パーク(Luneta Park)とも呼ばれている。

【 Intramuros (イントラムロス) 】☆☆☆

1571年、スペインがフィリピン統治のために建設した城壁都市。城壁内にはロマネスク風建築物が多数あったが、太平洋戦争末期にほとんど破壊され、12の教会のうち現存するのはサン・アグスチン教会ただひとつである。

【 San Agustin Church (サン・アグスチン教会) 】☆☆

フィリピン最古の石造建築の教会。太平洋戦争末期の戦闘から奇跡的に破壊を免れた。フィリピンで最も美しい教会と言われており、博物館も付設されている。

【 Manila Cathedral (マニラ大寺院) 】☆☆

イントラムロス内部でも目を引く大きな建物で、フィリピン・カトリックを代表する教会。創建は1571年であるが現在あるものは1958年の建立である。

【 Fort Santiago (サンチャゴ要塞跡) 】☆☆

イントラムロスの北の一角にあり、スペイン、アメリカなどのフィリピン支配の根拠地として軍事的な役割を果たした。城門を入るとリサール記念館がある。

【 Malacanang Palace (マラカニアン宮殿) 】☆☆☆

パシッグ河畔北側にある純スペイン風の宮殿。古くはスペイン貴族の別荘だったといわれており、スペイン、アメリカの統治時代には総督や高等弁務官の官邸として使われ、現在は大統領官邸になっている。1986年コラソン・アキノ大統領誕生に伴い、宮殿は一般公開されている(日・水休館)。月・火・木・金の9~11時と月・火の13~15時はガイド付きで200ペソ。木・金の12~15時はガイドなしで10ペソ。

土曜日の9~15時は無料公開。

【 Nayong Pilipino (ナヨン・ピリピノ=フィリピン文化村) 】☆☆

国際空港のすぐ近く。フィリピン各地の建物、風俗、習慣などを複製、再現して展

示している。フィリピンの姿を一通りざっと知りたい人に最適である。

【 アヤラミュージアム 】☆☆

マカティのマカティ通りにあるアヤラ財団の博物館。フィリピンの歴史を展示している。ショッピングの合間に立ち寄れる地区にある。

Dioramas, Gallery I, II : 火~日 9:00 ~18:00

Gallery III, Museum Shop : 火~土 9:00 ~18:00

【 アメリカンセメタリー 】☆☆

マカティのボニファシオ地区にある米軍墓地。毎日 6:30 ~16:45

< マニラ近郊 >

【 Tagaytay (タガイタイ) 】☆

マカティより南へ車で1時間半ほどのところに位置する海拔 700 メートルのひんやりとした景勝地である。観光スポットとなっているホテルの庭からは、眼下に世界的に有名な二重式火山のタール湖が広がっている(タール湖のなかにタール火山がある)。同ホテルのブコアイスは有名なもので、一休みして試してみるとよい。家族向け。

【 Pagsanjan (パグサンハン) 】☆☆

マカティより車で2時間ぐらい。パグサンハン・ラビッツホテルの裏から小さな2人乗りのボートで川を上る。1時間ぐらいで終点の大きな滝に到着する。狭い岩の間を上り下りするのはスリルがあり、楽しめる。頭から水しぶきをかぶるので着替えを持参すること。

【 カリヤヤ・フィリピン戦没者慰霊碑日本庭園 】☆

パグサンハンの滝より車で30分ほど北へ行った小高い山の上に、広大な敷地を持つ日本庭園がある。その庭園の中に平和の平の字を象ったフィリピン戦没者慰霊碑があり、戦没者の霊を見守っている。

【 コレヒドール島 】☆☆☆☆

マニラ湾の入り口にあり、戦略上重要な位置を占め、第2次世界大戦の激戦地でもあった。現在でも兵舎、砲舎、トンネルなどが保存されている。マッカーサー元帥がこの地からオーストラリアへ逃げる時に言った言葉 “I shall return” は有名である。マニラ湾ヨットハーバー脇の栈橋から高速艇が発着している。島内はガイド(日本語もある)付きのバスで回る。午前コースは7:30、午後コースは13:30 出発で、半日コースと1日コースがある。料金は大人1人39 USドル(昼食付き)。詳しくはサンクルーズ社(電話:831-8140)へ問い合わせること。なお、前日までに予約が必要である。

【 Taal City (タール市) 】☆

バタンガスの近くで、スペイン統治時代の家が3~4軒あり、博物館となっている。タール教会と併せて一見の価値がある。また、バタンガス・ナイフ、カラド刺繍などの産地でもある。

【 旧クラーク基地 】☆☆☆☆

マニラより北に車で1時間半から2時間。ノーススーパーハイウェイをダウで下りる。現在、基地返還後の跡地利用として開発が進んでおり、クラーク国際空港が仮オープンしている。広大な旧基地の中には免税ショップやレストランがある。また、施

設内にミモサリゾートがオープンしており、ホリデーインホテル、宿泊用ヴィラ、各種スポーツ施設がある。ゴルファーであれば27ホールのゴルフコースは必見である。

【旧スービック基地】☆☆☆

マニラより北へ車で3時間。オロンガポ市に隣接している旧アメリカ海軍基地である。アンヘルズ市のクラーク基地とともに返還後の総合レジャーリゾートとして再開発が進んでいる。観光客向けの総合レジャー施設が整備されマリンスポーツが楽しめる。施設内のホテルではカジノも楽しめる。ゴルフコースが整備中である。

【Matabungkay Beach (マタブンカイ・ビーチ)】☆☆

マニラから約3時間。日帰り客が多いが、宿泊設備も整っている。シュノーケリング、ダイビング、ウインドサーフィン、水上スクーターなどのマリンスポーツ以外に、テニスも楽しめる総合リゾート地である。

【Puerto Azul (プエルト・アスール)】☆

マニラから南へ車で1時間半。あまりきれいな砂浜ではないが、海水浴が楽しめることからシーズンには多くの観光客でにぎわう。ホテルがあり、ゴルフコース、テニスコート、スイミングプール、ボーリング場、スカッシュ、バドミントン、卓球などの施設がある。マリンスポーツではヨット、ウインドサーフィン、アクアサイクルなどの施設がある。比較的マニラから近いこともあってフィリピン人や韓国、香港からの観光客が多い。ビーチでの飲み物や食事は高い。ゴルフコースでは、観光客とみるとキャディーフィーなど法外な値段をいうので要注意である。

【Punta Baluarte (プンタ・バルアルテ)】☆☆

マニラから南へ車で約2時間30分。バタンガス州 (Batangas) のカラタガンにあるリゾート地。ゴルフ、テニス、水泳、釣りなどができる。予約は電話:818-3185、818-3628 (マニラ) まで。ゴルフコースはよく整備されており、起伏の多いのが特徴である。テニスは全天候型コートでインストラクター、ボールボーイが相手をしてくれる。

【Caylabne Beach Resort (カイラブネ)】☆

プエルト・アスールから車で20分。マルコス政権下では政府高官の保養地であった。別荘風のホテルを中心とする小じんまりしたリゾートで、完全に外部から遮断されている。プール、全天候型のテニス・コート、専用ビーチなどがある。のんびり、ゆったり派向きのリゾートであるが、海は濁っていて汚く、泳げるところではない。<ルソン方面>

【バタニス諸島 (Batanes Islands)】☆☆☆☆☆

ルソン島の北端から150km、台湾の南100kmの洋上に浮かぶフィリピン最北端の島々。空港はバタン島の中心都市、バスコにある。バタン本島その他、サブタン島、イトバヤット島などからなる。洋上に切り立った島、その雄大な岩礁、透きとおった海はフィリピンに残された最後の観光資源といわれる。椰子蟹や魚が豊富。イラヤ山 (Mt. Iraya) の雄姿と共に、島の丘陵地帯を覆う牧草地、草をはむ牛の姿はアルプスを彷彿とさせる。台風の通り道であることから伝統的な茅葺き石造りの家が立ち並び、特にサブタン島はフィリピンとは思えない趣である。マニラからフィリピン航空により週2便の直行便が運航されているほか、ラオアグからの便もある。所要時間は2時間半。台風の径路に当たるため台風シーズンの6月から11月にかけては欠航になる

ことが多い。空路以外に交通手段はないため、最後の秘境ともいわれている。宿泊施設はバスコ市内に州政府直営のイバタンロッジ(Ivatan Lodge)がある。その他にも観光客向けのコテージを建設中であるが数は少ない。景勝地は歩き回ればきりがなくらい多い。

犯罪発生率がゼロといわれている島であり、寝袋で野宿をすることも可能である。星が非常に美しく見える。1月から4月が最もよい季節である。アウトドア派向け。

【Laoag (ラオアグ)】☆☆

イロコスノルテ州の中心都市であり、マニラから450km、フィリピン航空で1時間、車で約9時間。台湾と結ぶラオアグ国際空港があり、台湾へのゲートウェイ都市となっている。マルコス元大統領の出身地であり、息子のボンボン・マルコスの結婚式のために建てられた、スペイン風煉瓦造りの豪華なリゾートホテルがある。当ホテルはその豪華さにおいて、国内観光地のホテルの中でも1、2を競う。また、50m プールやテニスコート、乗馬が楽しめる。カジノやカラオケもあり、主に台湾からの団体観光客で賑わっている。市内にはいる手前のBatac(バタック)という小さな町にマルコス元大統領の生家があり、現在はマルコス家の歴史博物館となっている。また、マルコスの遺体が冷凍保存、安置され埋葬許可を待っている。

【Vigan (ビガン)】☆☆☆

マニラから北へ400km、イロコススルの州都。スペイン人が16世紀末に当地に入植したときの中心都市として築かれた街。街中は今もスペイン風石造りの家並みが残されており、異国情緒豊かな雰囲気ですペイン入植400年の歴史を感じさせてくれる。

【Baguio(バギオ)】☆☆☆☆☆

マニラの北、約250km、標高1,500mの地点にある涼しい避暑地である。上流階級のリゾートになっており、一般庶民にとっては、一度は訪れたい憧れの場所である。マニラから車で4時間ほどだが、シーズンともなればバギオへ向かう道路は数珠繋ぎとなる。気候に恵まれて高原野菜の種類も豊富であり、在留邦人のなかにはバギオ野菜の共同購入をしている人々もいる。また、様々な花が咲き乱れていて美しく、ちょうど日本の軽井沢のようである。木彫細工、銀製品もマニラと比べて安く手に入る。また、イゴロット族の織物工場があり、そこで販売もしている。寒くなることもあるのでセーターまたはジャケットがあった方がよい。

【Banaue (バナウエイ)】☆☆☆☆☆

世界8番目の不思議といわれているライステラスは、約2000年以上も前にイフガオ族によって山の麓から上の方に耕された段丘水田である。訪れた人々は、人類の英知とその壮大さに感銘を受ける。マニラより車でボントック経由またはバガバグ経由で8時間ぐらいかかる。バナウエイにはホテル、宿泊施設も多数ある。

【Hundred Islands (ハンドレッド・アイランド)】☆☆☆

パンガシナン州リングエン湾に点在する小島群。名前のごとく島が100以上あるといわれている。風光明媚な景勝地で、日本の松島を思わせる。マニラより車で北へ6時間ぐらいい、道路は比較的よい。バリオ・ルカプより船(約15人乗り)が出ており、島々の中でも特に砂浜のきれいな島に上陸する。水泳、釣りなどができるので家族連れに喜ばれている。昼食、飲み物は必ず持参すること。近くには設備の整ったホ

テルがないので、ダグパンのホテルを利用するとよい。

【 Puerto Garrela (プエルト・ガレラ) 】☆☆☆☆

ガレラ港の名は、スペイン統治時代に太平洋をはさんで行われていた、ガレー船によるメキシコ・アカプルコ～マニラ間交易の風待ち港に由来するといわれている。ミンドロ島の入り口に位置しており、バタンガス港からフェリーで約2時間かかる。バタンガスまでは車で2時間を要する。シャトルバスとフェリーがセットになったチケットが出ており、それを利用すると簡単である。内湾になっており、波は静かで海水もきれいなので、マニラ近郊ではお薦めの観光地である。

【 Legazpi (レガスピ) 】☆☆☆

世界有数のコニーデ型活火山であるマヨン火山が特に有名である。マヨン火山の美しい形は日本の富士山を凌ぐ。また、中腹にある展望台からの眺めは最高である。火山地帯のため、近郊のアルバイに温泉リゾートがあったが、近年の地熱発電開発のため廃れている。マニラから車では10～12時間、飛行機では1時間半。ただし、レガスピ空港はその地形上から台風、天候不順の影響を受けやすく、フライトキャンセルがしばしばある。

<ビサヤス方面>

【 Cebu (セブ) 】☆☆☆☆☆

1521年、マゼランがこの地に建てたといわれる十字架のモニュメント、マゼランクロスは町の中心地にあり、歴史的な名所のひとつになっている。セブ本島およびセブ市のすぐ東側に位置するマクタン島には多数のリゾート地が散在している。マクタン島にはセブ国際空港があり、日本からの直行便も乗り入れているため邦人の観光客が多い。マニラからは空路で約1時間であり、毎日7～8便のフライトが複数の航空会社により運航されている。また、マニラ港からフェリーも出ている。

マクタン島のシャングリラホテルは観光客向けの豪華ホテルで邦人客も多い。ホワイトサンドの美しいビーチを求めて、セブ市から離れて探して回るのも一興である。

【 Puerto Princesa (プエルトプリンセサ) 】☆☆☆☆

パラワン島の中心都市で島のほぼ中央に位置する。マニラからフィリピン航空で約1時間10分。島の北部はエルニドなどの観光開発が進んでいる。プエルトプリンセサをベースにバンカーボートや豪華クルーザーで近場の島巡りをすることもできる。囚人村落、先住民族村落、地底の川など見所もある。同市の市長は、若かりし頃ギャングで3度の刑務所暮らしをしたことで有名な人物である。

【 El Nido (エル・ニド) 】☆☆☆☆☆

マニラからエル・ニド・リゾート専用機で1時間40分。パラワン島北端部の西岸に位置する。小さなビーチのある島が多く、島めぐりをしながらサンゴや色とりどりの熱帯魚をシュノーケリングで十分に楽しめる。もちろん、スキューバダイビングのスポットも多く点在している。エル・ニド・リゾートはパッケージ料金制を採用しており、それ以外に当地での支払いはなく、面倒がないためのんびりと楽しめる。そのほとんどが邦人客であり、予約は早めであれば難しい。問い合わせはテン・ノット・ツアーズ(電話:632-810-3602)まで。

【 Amanpulo (アマンプロ) 】☆☆☆

北パラワンのクヨ諸島、パマリカン島にあり、マニラより専用機で1時間30分。究極の超豪華リゾートである。

【 Boracay (ボラカイ島) 】☆☆☆☆☆

世界一といわれる美しい白い砂浜と、エメラルドグリーンの海が人々を魅了する。マニラからはフィリピン航空 (PAL) 定期便がカリボまで飛んでおり、カリボからバスなどを使う方法と、他社の定期便 (小型飛行機) でカティ克蘭へ下りて行く方法とがある。飛行機が古くて小さくても構わないという人にはカティ克蘭空港を利用するのが便利でお勧めである。

ダイビングはもちろん、ウィンドサーフィンやシュノーケリングなども十分楽しめる。また、ここでは300ドル程度でダイビングライセンスが取れる。

一泊100ドルの高級コテージから、10ドルで泊まれる安宿まで選択の幅は広い。安宿ではシャワー、エアコンはない。邦人に人気の高級コテージ「フライデーズ」はフィリピンのトラディショナルなスタイルでつくられており、雰囲気もサービスも満足のいく水準である。

ビーチに沿っていろいろな店が軒を並べており、ナイトライフも盛んで、どこからともなくバー、ディスコに人が集まる。一番人気のバーは「ココマンガス」で、フライデーズよりやや中心に近い方にある。食事の楽しみもボラカイの魅力の一つで、フィリピン料理はもちろん、タイ、メキシカン、フレンチと安価でおいしいレストランがビーチ沿いに並んでいる。満天の星空の下、レストランを選びながらぶらついてみるのも楽しい。他のリゾートと異なり、涼しい夜風の中、目抜き通りをそぞろ歩くことができる。

【 ボホール (Bohol) 】☆☆

マニラからタクビラランまでフィリピン航空で2時間の直行便か、セブからの便もある。パングラオのビーチリゾートもよいが、この島の名物はやはり、チョコレートヒルズ (Chocolate Hills) である。褐色の円錐形の小丘群が無数に広がる様は不思議としか言いようがなく、一見の価値がある。チョコレートヒルズはタクビラランから車で約2時間。

【 シキホール島 (Siquijor) 】☆☆

セブ、ボホール島の南に浮かぶ小島。セブから夜の直行フェリーで8時間、タクビララン経由もある。また、セブ〜ドマゲティ間の高速フェリーとドマゲティ〜シキホール間のバンカーボートを乗り継ぐ方法もある。観光化されることなく、美しい砂浜が保存されることを願わずにはいられない。アウトドア派向け。

【 タクロバン (Tacloban) 】☆

太平洋戦争の激戦地、レイテ島の中心都市。海岸沿いにある Macarther Park (マッカーサー・パーク) には "I shall return" の言葉どおり部下を引き連れてレイテに上陸するマッカーサー元帥の銅像が建つ。隣のサマル島とを結ぶ通称マルコスブリッジと呼ばれる San Juanico Bridge (サンファニコ橋) から眺めるレイテの海はかつての激戦を忘れさせてくれる。時間によってはレイテの渦潮を橋の上から眺めることもできる。イメルダ・マルコスの出身地で生家がある。戦史に興味のある人向け。

<ミンダナオ方面>

【カガヤン・デ・オロ (Cagayan De Olo)】☆

郊外に8,000ヘクタールにおよぶ、デルモンテの広大なパイナップルプランテーションがあり、もぎたてのパイナップルを試食することができる。見学には許可を取ることが必要である。それに隣接して日本で活躍するフィリピンのゴルファー、ミノザ氏のホームコースであるデルモンテ・ゴルフコースがある。空港近くの丘に建つプライズプラザホテルがお薦めである。当ホテルのレストランから眺めるカガヤンの海は最高である。

【ダバオ (Davao)】☆☆☆

戦前は「リトル・トウキョウ」と呼ばれた、日本人入植者で賑わったミンダナオの中心都市。今でも戦中の日本軍の駐留の爪痕が残る。台風がなく気候に恵まれている。湾内の目と鼻の先に浮かぶサマール島はホワイトビーチのリゾートで、ダバオのインシュラーホテルからフェリーで約15分である。ダバオの魅力はなんといっても南国の果物である。フルーツの王様ドリアンはダバオが唯一の産地である。独特の香り一度食べたらやめられない。くどいのが嫌いな方にはポメロがお薦めである。土産用フルーツショップが軒をならべる界隈で、試食をしながら品定めするのも楽しい。

フィリピンの最高峰アポ山 (Mt. Apo 3,144m) のほか、車で1時間足を延ばすとフィリピンの国鳥「フィリピンイーグル」が見られる自然公園がある。ただし、常時見られるのは檻に入れられて飼育されているもので、運がよければ野生のイーグルが見られるかもしれない。マニラからフィリピン航空またはグランドエア航空で1時間40分である。

【General Santos (ジェネラルサントス)】☆

マグロの陸揚げ港として有名。朝早くに魚市場に行くと、輸出用からはねられた小ぶりだが新鮮なマグロが買える。大きなマグロはすべて冷凍して日本へ輸出される。ダバオから南へ車で2時間ほどであるが、マニラからの直行便もある。

12-3 旅行

(1) 自動車

主要都市を結ぶ幹線道路は、良好な状態とは言いがたいが一通り舗装されている。しかし、幹線道路をはずれると状況は極端に悪くなる。マニラ近郊をはずれると道路案内や標識は、極端に少なくなり、不案内な人は戸惑うことも多い。ガソリンスタンドも同様にマニラ近郊をはずれると極端に少なくなるため、最寄りの主要都市で必ず満タンにして出発すること。特に雨季には道路状況に注意を要する。慣れるまでは自動車の利用を避け、飛行機、レンタカーなどの利用が無難である。

チャレンジ精神旺盛な人には日比友好道路をミンダナオまでフェリーを乗り継いでの陸路旅行が楽しい。

(2) バス

バス路線は発達しており、主要な島々の長距離陸上交通としてどの地域へも利用できる。しかしスリなどが多く、気がつくときショルダーバッグが無惨に切り裂かれ、財布が消えているなどの例もあるため、JICA関係者の間ではあまり利用されていない。長距離バスは、各ターミナルごとに停車する Station to Station または Stationary

と、目的地までほとんど停車しないノンストップ、最も快適な冷房付きノンストップタイプの3種類に分けられる。旅行には冷房付きノンストップタイプが利用されている。これは路線・本数ともに限られているため予約したほうが安心であるが、あれば当日券または乗車後に購入しても支障はない。路線によっては電話予約も可能であるが、一般的にはバスターミナルまで出向かなければ予約できない。

バス利用時の注意事項は次のとおりである。

- ・バスターミナルに行くのが遅い（出発間際）と、予約を取り消されていることがある。出発時刻の1時間ほど前にターミナルに着くのが無難である。
- ・乗車する前に、バス正面上部の表示板の目的地表示で行き先を確認する。
- ・乗り過ごさないよう、車掌に目的地に着いたら知らせてくれるように依頼した方がよい。

マニラの主要バスターミナルは次のとおりである。

Pantranco North (ダグパン、バギオ、バナウエ方面)

所在地：325 Quezon Ave., Quezon City

電 話：99-70-91

Philippine Rabbit (アンヘレス、タルラック、南・北イロコス方面)

所在地：819 Oroquieta, Manila

電 話：21-69-96

Victory Liner (マリベレス、オロンガポ、サンバレス、アンヘレス、バギオ、タガイタイ、バグサンハン、マタブンガイ方面)

所在地：713 Rizal Ave., Ext.

電 話：35-75-41

B.L.T.B (ラグナ、カランバ、ルセ、バタンガス、サンタ・クルス方面)

所在地：3E. de Los Santos Ave., Pasay City

電 話：89-72-16

Pantranco South (ナガ、レガスピ、ソルソゴン、マトノグ方面)

所在地：2944 Taft Ave., Ext. Pasay City

電 話：80-80-62

(3) 鉄道

マニラを中心に路線はあるものの、旅行には適さない。

(4) 航空機

島国フィリピンでは最も便利な交通手段である。航空運賃も日本の約半額ほどと経済的であり、多くの旅行者に利用されている。国内37都市に空港があり、バス、ジープニーなどと併用すれば大抵の目的地には半日で到着する。

従来、国営フィリピン航空が唯一の航路であったが、近年、民間航空会社が市場参入し、ほぼ独占状態であった市場にサービス改善と信頼性をもたらしている。1998年現在、フィリピン航空の占めるシェアは、国内貨物機約75%、国内旅客機約50%である。フィリピン航空は、アジア経済危機の影響による経営難と、それに端を発した労使交渉の決裂のため、1998年9月に一度は廃業を決定した。しかしながらその後和解が成立し、10月以降、国内線、国際線とも順次運航を再開している。

新設民間航空会社のひとつ、Grand Air 社では、マニラからセブ、タクロバン、ダバオ、カガヤンデオロなどに大型航空機を就航させて、利用者の選択の幅は広がっている。また、大型航空機の就航ができないリゾート地への便も、小規模航空会社の努力により改善の兆しが見られる。

航空機利用上の留意点は次のとおりである。

- ・少なくとも1時間前にはカウンターでチェックインすること。離陸間際には搭乗できない場合がある。
- ・特にフィリピン航空は間引き運航をすることがあり、空港で長時間待たされたり、予定より早い便に乘せられたりすることがある。また、運航数の少ない路線をキャンセルすると、次の便をとることは難しい。
- ・空港ではIDカードの提示を求められることがあるので必ず携帯すること。

12-4 旅行代理店

航空券、ホテルなどの予約の手間を省くとともに、安全な旅行のためには旅行代理店の利用も考えられる。主要な旅行代理店は次のとおりである。

旅行代理店	所在地	電話
Discovery Tour, Inc. (JICA 指定業者)	G/F Unit 301, Sagitlarius Bldg. H.V.de la Costa ST., Salcedo Villge, Makati,M/M	818-7716 812-3328
Marsman	Marsman Building, Senator Gil J. Puyat Ave., coner Washington St., Makati,M/M	843-5501 843-6581
KITTCO	2nd Floor, Jaka 2 Bldg. 150 Lgaspi St., Legaspi Village, Makati,M/M	818-7926 818-7927 815-0436
Philippine Leisure Inc. (邦人スタッフ)	Ground Floor Don Jose Bldg. No.533 A.Flores, coner Grey St. Ermita, Manila	
STARS TRAVEL, INC.	G.F.Victoria Manssion 600 J.Nakpil Bacebe St.Malate	59-1158
Business Travel and tours Inc.	2F RS-10 Makati Creek Side Bldg. Amorsolo, coner Herrera St., Legaspi Village, Makati, M/M	892-5951 892-2411
Treschic Executive Services	#201 Prince Plaza II, De la rosa coner legaspi Street, Makati, M/M	894-1231 FAX:815-6994

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

航空券の手配と共に旅行代理店に依頼するとよい。特に手数料などはかからない。観光地にあるホテルの大半は電話での直接予約も可能である。ホテルによってはJICA 割引、比政府職員割引などのディスカウントがあるので確認するとよい。地方ホテルは一般にペソで支払うが、高級ホテルならば現金またはクレジットカード(アメリカンエクスプレス、VISA、ダイナースクラブなど)での精算ができる。観光地にあるレストラン、土産物店でもクレジットカードが利用できる。しかしながら、カード詐欺の例もあるので使用に当たっては十分注意すること。ホテルの良否については口コミがもっとも信頼できる。経験者から情報を得るとよい。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

暴動、クーデターなどの発生時は、原則として在フィリピン日本大使館の指示、誘導にしたがって速やかに行動すること。

JICA 関係者はフィリピン事務所と緊密な連携をとり、事前の正確な情報入手および緊急連絡網による相互連絡の徹底、確保をはかることが必要である。JICA 事務所では、職場別（プロジェクト別など）の緊急連絡網を作成して備えている。

各人も、日頃から関係する専門家（場合により協力隊員）との連絡方法を考えておくことは大切である。また、ある程度のまとまった現金（外貨を含む）、1週間程度の食料、飲料水の備蓄を心がけておく必要がある。

緊急事態が発生した場合は、その規模、鎮圧の見通しなどを冷静に見極めるとともに、家族の生命の安全を第一に考え、大使館、事務所の指示に従って沈着、冷静に行動することが要求される。

避難時の荷物は最小限とし、家族共々身軽に行動できるよう平素から準備しておくことが大切である。また、状況により安全な場所は変化するので、常に情報の収集に努め、安全と思われる場所の確保を心がけておくこと。

避難場所としては友人、知人などの個人住宅、ホテルのほか、宿泊施設のある JICA プロジェクトなども考慮に入れておいたほうがよい。また、避難する場所まで自分で運転ができるよう、日頃から運転技術や土地勘を養っておくことも必要である。

NHK国際放送、AM、FMの聴けるラジオは必需品であり、持参を勧める。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

日本と較べると、治安がよいとはいえない。

犯罪件数の推移をみると、1997年の一般犯罪発生件数は1990年と比較して49%減少している。内訳は殺人が43%減少、強盗が64%減少、強姦は69%増加となっている。しかしながら対人口比で殺人は日本の17倍、強盗は5倍、強姦は3倍の発生率で依然発生件数は高い。

長期滞在者をはじめ、観光旅行者、商用旅行者（ビジネスマン）を含む邦人を対象とした犯罪もあとを断たない。滞在者は、犯罪を少しでも回避するよう隙のない堅実な生活姿勢を保ち、お互いに気をつけ合っている。

(2) 防犯対策

住居における防犯対策は次のとおりである。

<ビレッジ>

ビレッジ内の家選びのポイントとして、まず外からみて明るく落ち着いた感じであり、部外者に容易に邸内に侵入されない、たとえされても外から不審者が発見されやすい家構えがよい。

塀が高く外から内部が見えない家は、侵入するのは容易ではないが、いったん侵入されてしまうと、賊は大胆になり危険である。また、空き地や空き家が隣接している家は避けた方がよい。これは過去の事例をみても、盗人の潮待ち場所、侵入、逃走口

として使われる。

付帯設備として、平屋、2階建てともに各窓に鉄格子（グリル）がついているのがよい。使用人部屋も同様である。さらに家の周囲は夜間明るくしておく必要があるので、照明設備のある家がよい。玄関ドアはダブルロック、ドアチェーン、ドアスコープがついていること。また、マスターズルームにもドアロック、ドアスコープが必要である。家の中に防犯ベルが設置されていない時は、家主に交渉してつけてもらうか、自ら購入して取り付けた方がよい。犬を飼うのも効果的である。

<マンション（コンドミニアム）>

一般に、高級コンドミニアム、マンションなどは出入りのチェックがしっかりしており、ビレッジに較べると部外者による犯罪は少ない。

各戸の玄関にはドアスコープ、ダブルロック、ドアチェーン、インターホンがついていること。マスターズルームにもドアロック、ドアスコープがついているとよい。

以上、引っ越しが終わって落ち着いた時点で、もう一度防犯について検討すること。また、戸締まりや施錠については他人任せにせず、就寝前に自らチェックするよう習慣づけることが重要である。

家政婦／夫、運転手などの雇用にあたっては、無犯罪証明（NBI Clearance）、住居証明、運転免許証などを確認のうえ履歴書（Bio-date）を提出させ、面接でじっくり人柄を見極めること。採用が決まったら、ビレッジのアソシエーションに登録する（指紋を含む）こと。

住宅外での防犯対策として、車での走行中は必ずドアロックすることを運転手にも徹底させる。ヒッチハイカーは乗せないこと。

誘拐の可能性があるので、家を出た時、職場を出た時、尾行者がいらないか確かめること。夜間のひとり歩きは避ける。

スリが多いので、持ち歩く貴重品は最小限にすること。

タクシーを利用する時は、大きなホテルなどから安全な会社の車を選び、コースはできるだけ大通りを選ぶ。運転手の挙動に不審がないか注意する（運転手が強盗に豹変することがある）。

誘拐や交通事故から守るため、子供には監視人をつけるとともに平素の交友関係、行動範囲を把握しておくこと。

夜間の駐車には、明るく、ガードマンの目の届く場所を選ぶ。

職場においても窃盗事件が発生しているので、貴重品は錠のかかるところに保管しておくこと。

(3) 被害時の心得

不幸にして強盗にあった場合、犯人は必ず凶器を持っているので、生命の安全を第一に考え、ホールドアップするしかない。また犯人の顔を見ないようにすること。犯人は自分の顔を覚えられ、通報されるのを恐れるからである。

被害に遭った現場はそのままの状態にしておき、ガードマンのいるアソシエーションに電話で通報する。その際、ビレッジのゲートの検問などを依頼するとともに、速やかに臨場してもらう。強盗の多くは電話線を切断して逃走するので、近所の電話を借りて通報する。一次的にはガードマンが臨場し、犯行現場をざっと検分して警察署

に通報し、本格的な現場検証が始まる。ただし、盗品が戻ってくる可能性は殆どない。

事件発生時には隣近所との連携も必要となる。平素から友好関係を保ち、非常時には助け合うようにする。ビレッジによっては、邦人だけの連絡網を完備しているところもある。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

アジア諸国のなかでも自然災害の多い国である。毎年、台風により甚大な被害をもたらされるのに加え、火山列島であるため火山噴火や地震も多い。1990年にはバギオ大地震、91年には今世紀最大といわれるピナトゥボ火山の大噴火が起こっている。ピナトゥボの噴火による死者は約1,000人、被難民は一時100万人にも及んだ。また91年の暮れにはオルモック台風がビサヤ地方を襲い、数千人の死者を出している。自然災害のなかでも日常生活に特に影響が大きいのは、毎年10～15回は襲来する台風である。発生時期は主に6～12月である。常襲地域はビサヤ地方から北部ルソンまでであり、ミンダナオではほとんどない。

首都マニラは比較的自然災害の少ない地域ではあるが、マニラ湾に近く、低地でかつ排水機能が悪いいため、場所によっては大雨のたびに床上浸水し、道路は冠水し、交通渋滞のもとになっている。邦人の多く住むマカティ地区は、若干高くなっており、浸水することはほとんどない。

火災は比較的多い。概して建造物の外観は立派であるが、内部の電気配線の状態が悪いため漏電を起こしていることが多く、これが火災の大きな原因となっている。

(2) 防災対策

住宅を選定する場合は、漏電の有無を調べるとよい。すべての電化製品の電源を切り、電気のメーターが動かないことを確認すること。入居時には火災時の避難路を確かめることが重要である。

台風などの自然災害が発生した場合、断水となる可能性が大きいので、日頃から非常用の飲用水および生活用水の備蓄を心がけておく。住宅にプールがあれば、災害時には非常用水槽の役割を果たす。

また、数日分の食料（缶詰など）を備蓄しておくのが望ましい。

(3) 被災時の心得

自然災害などのニュースはテレビ、ラジオ、新聞で速報される。これに注意して状況を把握すること。新聞などで発表される台風情報の意味は次のとおりである。

- ・ストームシグナル No.1：フィリピン近辺に台風が発生し、36時間以内に警報地方に風速1時間60キロメートル（秒速16.6メートル）以下の風が予想される。
- ・ストームシグナル No.2……台風が接近しつつあり、24時間以内に警報地方に風速が1時間に60～100キロメートルの風が予想される。高校以下は休校となる。
- ・ストームシグナル No.3……台風の影響下にあり、危険な状態である。12～18時間以内に風速が1時間に100キロメートル（秒速27.7メートル）以上の風が予想される。大学を含め全て休校となる。

防犯上、すべての窓に鉄格子を取り付けている家が多いが、これが避難時の障害になることがあり、この対応を考えておくべきである。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

ニノイ・アキノ国際空港は地上4階、地下1階の建物で、2階が到着関係諸施設となっている。

通常、日本航空便は9番ゲート、タイ航空便は10番ゲート、フィリピン航空便は2番ゲートまたは9番ゲートに到着する。

荷物は搭乗便名の表示のあるBaggage Beltにて受け取る。例えば日本航空の場合はJAL旗がベルトに掲げられる。

カートが必要な場合は、イミグレーションを出てすぐわきにある、カート使用券販売所にてチケットを購入する。カート1台につき30ペソまたは1ドルで、日本円しか手元にない場合は千円札で支払い、おつりをペソでもらうことになる。チケットを係員に提示してカートを受け取る。

到着ロビーでは荷物の確認をするとともに、航空券に添付してある預け入れ荷物の半券(Baggage Claim)を係官に提出する。

(2) 入国手続書類

入国カード、税関申告書が必要である。外貨持ち込み制限はない。

(3) 入国審査

入国カードおよびパスポートをイミグレーションに提示する。公用旅券所持者は入国身分“9E”を受ける。審査官が誤って一般旅券用の入国身分を記入することがあるので、必ず“9E”になっていることを確認すること。間違っている場合は、ただちに審査官に申し出ること。

(4) 税関検査

各自荷物を税関まで運び、パスポートおよび税関申告書を提示し、検査を受ける。入国時に無税扱いとなるのは酒類2本(1.4リットル)、タバコ200本(葉巻は50本、パイプタバコ250グラム)である。

JICA関係者に発行される公用旅券では手荷物検査免除、無税通関特権は与えられていない。

カメラ(報道用を除く)、テープレコーダー、ゴルフセットなど個人使用を目的とし、60日以内に必ず持ち帰るものについて係官から課税対象であるといわれた場合は、再輸出証明(Re-Export Commitment: 課税対象物を60日以内に再び国外に持ち出すことを条件に、無税で通関する処置。申告物の数量、評価額を書類に記入する)を受けて通関することができる(出国時には必ず再輸出証明を提示すること)。

未使用品の場合、前述該当品といえども個人使用とみなされず課税対象になることがある。またテレビセット、冷蔵庫など耐久消費財は常に課税対象である。概して電化製品に対する課税率は高く、市価の半額程度である。

薬品(常備薬は除く)、銃火器、麻薬類の持ち込みは禁じられている。

犬猫などを持ち込むには当地でも検疫が必要である。その際必要な書類は次のとおりである。

・狂犬病予防接種証明書および英文翻訳

- ・狂犬病ではない旨の証明書および英文翻訳
- ・健康である旨の証明書および英文翻訳
- ・検疫証明書：上の3つの書類により日本の検疫所から発行してもらう。

到着後、上記の4つの書類を提出し、検疫手数料一匹につき215ペソを支払えば、通常その日のうちに引き取ることができる。

(5) 空港内での留意点

持ち主不明の荷物は荷物紛失カウンター横に集められる。そこでも見当たらない時は紛失荷物請求を申請する。その際、荷物預かり証が必要である。申請書にはフィリピンでの滞在先を忘れずに記入すること。乗り継ぎ便で積み替え忘れた場合などは1週間程度かかる。

通常、機内一時預かり荷物は到着時に機内で返されるが、入国審査を出たところにあるインフォメーションカウンターに置かれることもしばしばある。

パスポート、航空券、現金などの紛失・盗難の際は、空港警備員に申し出て協力を依頼する。その際、パスポート、航空券の再発行に必要な事故報告書 (Police Report) の記入を忘れないこと。

荷物の運び降ろしや税関検査を代行するなど言葉巧みに近づき、多額の報酬を要求する詐欺まがいの行為がみうけられる。不審な人物には十分に注意し、荷物、パスポートなどは絶対に預けないこと。特に到着ロビーから外に出る際、勝手に荷物を持ち運び、法外なチップを要求する人がいるので注意すること。

深夜に到着する人に被害が多発している。赴任時には深夜到着便は極力避けること。

(6) 空港からの主な交通手段

JICA の出迎え対象者であれば、JICA フィリピン事務所の送迎要員（空港バスを胸につけている）が、対象者の名前を明記した用紙を持ってイミグレーションカウンター前、または到着ゲートにて出迎える。その際、同要員に対し身分証明書の提示を要求すること。また、出迎えの車には、車内の人物の身元を確認してから乗ること。

予定していたにも関わらず出迎えに会えなかった場合は、通関手続きを済ませた後、銀行カウンター前にある公衆電話にて速やかにフィリピン事務所に連絡すること。

JICA フィリピン事務所

所在地：12th Floor, Pacific Star Bldg., Senator Gil J. Puyat Ave. Extension
Corner Makati Ave., Makati

電 話：893-30-81

出迎えのない場合は次の交通機関を利用する。

<タクシー>

到着ロビー中央付近にあるカウンターでチケットを買う。空港 Gate 1 を出たところに乗り場がある。料金は行き先別に明記されており、例えば AVIS 社の場合はマカティまで 280 ペソである。

なお、マニラおよびバギオのタクシーはメーター制で料金の表示があるが、他の都市のタクシーにはメーターがない。必ず乗車前に目的地までの料金を交渉すること。

空港周辺で客待ちをしているタクシーには悪質なものも多く、特にニノイ・アキノ国際空港では白タクや悪質な運転手による被害が頻発している。利用の際は十分注意

すること。

<シャトルバスサービス>

主なホテルや主要道路沿いまで運行している。バス会社の宣伝掲示板を持った係員が空港出口付近に待機している。行き先が限られているため個人宅を訪れるには適していない。多数の乗客で混み合うため安全面で多少不安があるが、ホテルが運営しているバスは比較的無難である。

<その他>

中小都市の空港からの交通手段は、ホテルのシャトルバスを除けばトライシクルが一般的である。料金はメーターなしのタクシーと同様である。

他に日産レンタカーなどがある。

(7) その他の留意点

空港内（税関脇）の銀行にて外貨交換が可能である。交換率はホテルと同程度である。チップ（5～10ペソ程度）に使う5ペソ、10ペソ紙幣を用意しておくとお便利である。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

空港の3階が出発関係の施設である。日本航空、タイ航空の利用者はGate 1、フィリピン航空利用者はGate 2より入場する。

(2) 出国手続上の留意点

入場の際、パスポートとチケットを係官に示す。出発ロビーで荷物のX線検査を受ける。荷物をそれぞれの航空会社のチェックインカウンターまで運び、航空券とパスポートを提示してチェックインする。次に荷物の重量検査を受け、超過料金があればそれを支払う。また、空港使用税500ペソを支払う。ドル払いも可能であるが、レートの変動によって金額が変わるため、ペソの用意を勧める。出国審査にはパスポートと出国カードが必要である。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

一般旅券の場合、短期（21日以内）滞在であればビザは必要ない。

公用旅券の場合、ビザは出国するまで有効である。入国して1年以上経過している場合は、フィリピン観光省に免税証明の発給を依頼する必要がある。パスポートとJICA フィリピン事務所発行の証明書が必要である。また、一時帰国などで出国する際は、フィリピン外務省にあらかじめ再入国許可を受ける必要がある。数次旅券の場合は1年間有効である。

犬、猫などを日本に連れ帰るには、事前にフィリピン畜産局に検査を依頼し、健康証明書と出国許可証の発行を受けなければならない。さらに、犬は獣医による狂犬病予防接種証明が必要である。フィリピン動植物検疫は書類が揃っていれば即日通過可能である。ただし、成田の動植物検疫では健康状態を確認するため約1週間～10日の保護看視を行っている。

成田の検疫局は、事実上、フィリピンからの果実や植物などの持ち込みを禁止している。

(2) 車の処分

JICA 関係者は免税車を購入することが多いようである。免税車は、新車として登録してから3年以上を経れば非免税対象者への売却が可能であるが、税率が高いため買い手を探すのは困難である。したがって免税対象者同士の売買が主となる。免税対象者としては JICA 職員・専門家、各国大使館職員（USAID 職員などを含む）、国際機関（ADB、WHO など）職員などが考えられる。大使館の掲示板などを利用して情報の交換を行う。

通常、JICA 関係者は免税車譲渡手続きを民間業者（OCS）に委託している。おおまかな流れは次のとおりである。

JICA 事務所に車両売却許可の申請を依頼する。その際必要な書類は車両登録書類のコピーである。フィリピン外務省より許可を承認する返答文書が発行される。売り手は譲渡契約書にサインした後、公証人の認定を受け、双方の同意を確認する（譲渡契約書には買い手の署名も必要）。譲渡契約書をフィリピン外務省に口上書にて提出し、車両譲渡許可を申請する。また、JICA 事務所に車両名義変更の申請を依頼する。その際必要な書類は、譲渡契約書とパスポートのコピーである。関税局で発行される支払い証明書は無税扱いになる。詳細は JICA 事務所に問い合わせること。

当国は、公用旅券、公用査証所持者に対して車両1台を免税にて所有することを事実上認めてはいるが、実際は免税ではなく、自動車輸入税の支払い猶予を認めているに過ぎない。輸入された時点では免税扱いであっても、その車を公用旅券、公用査証所持者以外の者に譲渡売却する場合や廃棄処分する場合には、猶予されていた税金の支払いが生じる。したがって、代々、公用旅券、公用査証所持者に使用され、ついに利用価値がなくなった車の所有者は処分に困ることになるが、現在の法制下ではこれを免れることはできない。最終処分前に所属先などに寄贈するなどして対処している。

(3) 家財道具の処分

家財道具を輸送する方法として、a) 帰国便にて同時携行する、b) 航空便として別送（アナカン）する、c) 船便で送付するという手段が考えられる。

b)、c)は下記専門業者に依頼することが多い。

日本通運

電話：819-9168～9

備考：日本人スタッフが担当。

料金は荷物の重量・形状によってかなりの差がある。複数の業者から見積もりをとることを勧める。いずれにしても費用や手間もかかるので、日本で買い換えできるものは当地で処分するのがよい。処分の方法としては次のものがある。

邦人に売却……JICA 事務所の掲示板などを利用する。

一般に売却……自宅を開放してガレージセールを開く。人の出入りが多く、煩わしいこともあるが、欧米人はよく利用している。

業者に委託……引き取り業者が自宅まで出向いて家財道具を査定し、引き取ってくれる。

(4) 住宅の明け渡し

賃貸契約書に明け渡しの際の手続きが記載されている。通常、明け渡しの2ヶ月前、遅くとも1ヶ月前には家主に通知する必要がある。

入居時に支払ったデポジットは、契約終了の際、返却されることになっている。ただし、電気・水道料金の支払いが翌月に持ち越されることや、家の補修を理由に全額返却されないことも多い。平常より家主との友好関係を保ち、努めて連絡を密にしてトラブルが発生しないように努めること。

(5) 外貨持ち出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

該当情報なし。

(2) 輸入手続

JICA 専門家は、赴任後6ヶ月以内に引き取りを完了することを条件に、私物を無税でフィリピンへ輸入することができる。なお、専門家の購送機材および輸送機材についてはJICA 本部より連絡があり次第、携行機材の到着案内を各専門家のビジョンボックスへ配付している。

JICA 専門家が私有貨物を当地に送付する方法として、次の方法がある。

【同時携行】

最も早く引き取ることができる方法である。ただし制限重量を超えると1キロ当たりファーストクラス運賃の1パーセントのエクセス料金がかかる。

通常、乗客一人につき100キロ程度ならば、口上書（無税通関にかかるフィリピン政府からの許可証）がなくても、通関に問題はない。しかしながら、AC電源を使用する大型機器（コンピュータ、精密機器など）、新品であると判断されるダンボール梱包物、多量の薬品などを持ち込む場合（あくまでも経験則で明確な規準はない。税監吏の裁量による）は、事前に口上書を取得した方がよい。その場合は、赴任日の2週間前までに氏名、英文インボイス、英文パッキングリスト、フライト予定日およびフライトナンバーを本部担当者を通じてフィリピン事務所へ連絡すること。

【航空便による別送】

航空便にて送付された貨物（アナカン）を引き取るには、口上書の取得が必要である。口上書を取得するには、ナンバー入りエアウエイビル、英文インボイスおよび英文パッキングリストが必要となる。フィリピン事務所調達班は以上の必要書類を受領後、約2～3週間で貨物を引き取り指定場所に配達する。

赴任時にエアウエイビルがない場合はフィリピン事務所にファックスしたうえで、クーリエ便で送付するよう日本の業者に依頼すること。

JICA PHILIPPINES OFFICE PROCUREMENT SEC (フィリピン事務所調達班)

CC Mr.NAME OF EXPERT, ASSIGNED ORGANIZATION

FAX : 63-816-4222

<クーリエ便あて先>

CC Mr.NAME OF EXPERT , ASSIGNED ORGANIZATION

C/O JICA PHILIPPINES OFFICE

12TH FLOOR, PACIFIC STAR BLDG SEN GIL J. PUYAT AVE. EXT.

COR. MAKATI AVENUE, MAKATI, METRO MANILA, PHILIPPINES

なお、実際の引き取り・配達は通関業者（カスタムブローカー）が行う。引き取り費用として約100キロで最低5,000ペソかかる。また、倉庫保管日数が長くなったり高価格品の場合は追加費用を要する。通関業者は特に指定がない場合、Overseas Cargo Service（下記）を利用する。配達日を専門家の所属先に連絡するよう同社に依頼しているが、突然配達されることもある。

OVERSEA CARGO SERVICE

電話：0918-8800606

担当：Mr. Habla

【船便による別送】

空送と同様に口上書の取得が必要である。口上書の取得手続きには、出港後に発行される船荷証券 (BILL OF LADING 通称 B/L) のコピーが必要であり、日本から B/L のコピーが届くのを待たなくてはならない。手続きを開始してから貨物が配達されるまで通常 1 ヶ月から 1 ヶ月半を要する。

配達は通関業者 (下記) が行う。専門家は裏面にパスポートと同じサインをした B/L のコピー、英文インボイス、英文パッキングリストを調達班に提出する (オリジナルの B/L は、入手後調達班に提出するか、通関業者に直接渡す)。B/L、インボイス、パッキングリストはフィリピン事務所にファックスしたうえで、クーリエ便で送付するように日本の業者に依頼すること。また、配達先を文書で調達班に必ず連絡すること。特に指定がない場合は次の通関業者に委託している。

617 INTERNATIONAL CARGO FORWARDERS, INC.

電話：47-28-51、48-31-37

担当：Ms. Linda、Ms. Connie

引き取りの直前に JICA 事務所および所属先の在職証明 (WRITTEN COMMITMENT) が必要となる。これは通関業者から送付されたひな形に基づき作成し、調達班に提出する。JICA 事務所からの証明書は調達班にて作成する。配達先の連絡と在職証明は、相談のうえ直接通関業者に渡すこともできる。配達後に引き取り料の請求がある。

(3) 輸入荷物の受取り港

該当情報無し。

(4) 家財道具の購入

家具店は、MCC 内、Greenhills Shopping Center 内、オルティガス通り沿い、Greenhills、Quezon Blvd 沿いなどにある。

15-2 自動車

(1) 一般事情

JICA 専門家は、赴任後 6 ヶ月以内に手続きを開始することを条件に、車 1 台を免税で購入することができる。購入には次の方法がある。

- a) 本邦にてあらかじめ発注するか、または当地の輸入ディーラーから購入する。
- b) フィリピンに在住している JICA 関係者またはその他の免税特権者 (大使館員、国際機関勤務者など) から、中古車を免税にて購入する。
- c) フィリピンで組み立てられた新車または中古車を税込みで購入する。従来は新車購入時に高額の税金が課せられていたが、当地での生産を保護するために 95 年より輸入税が下げられた。非免税車は免税車と異なり処分の際の制限がないというメリットがある。

車両ナンバーは、a) または b) で購入した場合は、免税ナンバー、c) で購入した場合は一般ナンバーとなる。なお、1994 年より右ハンドル車の輸入は禁止されており、現存車両の再登録も難しい状況である。

(2) 輸入手続

必要なのは船積み書類のコピー、車両のメーカー、車種、年式、色、シャーシ番号、エンジン番号などの情報である。

JICA から日本大使館に輸入許可の口上書の発行を依頼する。口上書はフィリピン国外務省、大蔵省税関経由で約2週間で承認される。その後、JICA から大使館に対して免税許可の口上書の発行を依頼する。口上書は、フィリピン国外務省、大蔵省を経由して約1ヶ月で承認され免税許可が下りる。

車両は通関業者により各メーカーの整備工場に持ち込まれ、検査後本人が引き取る。

(3) 任国での購入

当地組み立て車両の品質は近年格段に向上したといわれている。車種は限られるものの、ほとんどの日本メーカー、メルセデスベンツ、BMW、ボルボ製品を購入できる。また、輸入ディーラーより免税車を購入できる。

(4) 自動車登録

車両登録手続きは次のとおりである。

a) 陸運局で証明書を取得する。必要書類は支払い証明書のコピー（緑色）、B/L、インボイス、パッキングリストのコピー、JICA からの証明書である。

b) PC/INP（キャンプクラメ）へ車両を持って行き、盗難車ではないことの証明書（PC クリアランス）を取得する。この証明書が発行されるまで約3～4日かかる。必要書類は、支払い証明書のコピー（緑色）、B/L、インボイス、パッキングリストのコピー、陸運局発行の証明書である。

c) 再び陸運局に戻り、当該年度登録証書を取得する。必要書類は支払い証明書のコピー（緑色）、B/L、インボイス、パッキングリストのコピー、PC クリアランス、強制保険証書のオリジナルである。登録証書を取得後、コピーを JICA に提出すること。なお、JICA から外務省を通じて陸運局に送られる口上書が届いていないと登録できないので、陸運局に口上書の到着を確認してから手続きを行うこと。

車検制度はないが、毎年登録更新をしなければならない。ナンバープレートの末尾数字が登録月、末尾より1つ前の数字が登録週（1、2、3は第1週、4、5、6は第2週、7、8は第3週、9、0は第4週）となる。期日の1ヶ月前から手続可能である。登録料300ペソのほか、ステッカー代3ペソ、Legal Research Fund 10ペソがかかる。登録が遅れると罰金を科せられる。特に最初の更新（1年目）は忘れがちであり注意が必要である。

自動車登録更新時に必要な書類は、自動車登録証、前年の同登録証書、保険証書、ステンシル（車体ナンバーとエンジンナンバーを鉛筆で写しとったもの。陸運局に有料でこれを行う人がおり依頼できる）である。

陸運局に、必要書類と登録車両、登録料を持参する。

車内に常備しなければならないものは自動車登録証、自動車登録領収証（自動車に関する全書類を携帯しているとよい）、警告板の赤い三角形の板である。常備するのが望ましいものは、保険会社の連絡先（場所、電話番号、担当者名）、公衆電話用小銭（2ペソ）、スペアタイヤ、工具である。

(5) 免許証取得

国際免許証でも運転可能であるが、一般的ではない。早いうちにフィリピンの免許証に切り換えた方がよい。

日本大使館領事部で日本免許証の翻訳をしてもらい、翻訳証明書をもろう。手数料は 550 ペソである。日本免許証、翻訳証明書を持参して陸運局に申請する。

陸運局免許センターの各所在地は次のとおりである。

陸運局本部 免許課……………East Ave., Quezon City

ノーザン免許センター……………Edsa, Quezon City

ウェスタン免許センター……………Sampaloc, Manila

イースタン免許センター……………Boni Ave., Mandaluyong

サウザン免許センター……………FTI Complex, Tagig

免許センターでは免許証用の写真を撮り、手数料の領収証を発行する。この領収証が一時免許証となり、その日から自動車の運転ができる。一時免許証の有効期間は 90 日間である。本免許証は申請した免許センターに受取に行く。もし 90 日たっても本免許証ができない場合は、一時免許証（領収証）の裏面に有効期間延長の記載をもらう。

免許の更新は、期限内に陸運局にて更新手続きをしなければならない。更新手続きは有効期限終了日の 60 日前から可能で、費用は 150 ペソである。遅れると 25 ペソの罰金を支払わなければならない。1 年以上遅れると 50 ペソの罰金、2 年以上になると再度試験を受けなければならない。

当地で取得した免許証は、取得後 3 ヶ月以上滞在していたことが証明されれば、日本に持ち帰って日本の免許証に切り換えることができる。

(6) 保険、税金

自動車保険に加入することを勧める。次の日系保険会社に参加している人が多い。

保険会社	電 話	担当者
PAN-MARAYAN INSURANCE CORP. (東京海上火災保険)	818-5211	Ms. ELVIE VALDES
FIRST LEPANT-TAISHO INSURANCE CORP. (三井火災海上)	818-4634	Mr. WATADA
PARAMOUNT INSURANCE CORP.	812-7956~60	Mr. AUGUSTO GOZAR
BENRI-YA GENERAL SERVICE CO. (安田火災海上代理店)	825-8077	Mr. SHISHIDO
SUMITOMO MARINE AND FIRE INSURANCE (住友海上火災保険)	817-7338	Mr. MAKINO

保険には次の 2 種類がある。

自動車賠償保険： 本人の車、対人（第三者）、対物（相手の車）が対象。

傷害保険：自動車事故に限らず、どんな場合にも適応される個人が対象の保険。

補償請求に必要な書類は、保険証書（コピー可）、事故報告書、警察の事故証明書（ない時は本人の供述書）、運転免許証とその領収証のコピー、車両登録証とその領収証のコピーである。

16. 社交

16-1 風俗習慣

フィリピンは、国民の90パーセントがキリスト教徒といわれるアジア最大のキリスト教国である。南国特有のだからで明るい性格を持ち、アメリカ譲りの民主主義が経済発展より先行している。

フィリピーノタイムに代表される彼らの特性は、無責任、無慎重、興味本位などと批判されることもあるが、邦人が見習うべきホスピタリティと豊かな家族愛を持ち、また陽気で明るく、楽観主義であり、人生をエンジョイできる特性を持ちあわせている。それがフィリピン国民の誇りでもある。

16-2 パーティーでの留意点

誕生日、結婚式、洗礼式、フィエスタ（村祭り）、クリスマス、記念式典、歓送迎会、親善・親睦など、ことあるごとにパーティーが開かれる。フィリピン人にとってパーティーはお祝いの意味に加え、よい人間関係を生み、育むための大切な手段である。招待された時はできるだけ積極的に出席することが望ましい。

パーティーでは出会いを大切に、招く側、招かれる側それぞれの立場で、思いやりの心を持って接することが大切である。

パーティーの形式には、晚餐会、午餐会、カクテル、ビュッフェ、お茶会などがある。大人数のパーティーでは、会場に着いたらまずレシービングラインでホストに挨拶をすること。会場内では顔見知り同士や邦人同士でかたまらず、積極的に自己紹介しながら、多くの人と会話をするよう心がけるとよい。また、スピーチやゲームへの参加を勧められた時はできるだけ応じ、場を盛り上げるよう努める。

ビュッフェテーブルの周りは混雑するので、欲しい物を取り終わったら離れて他の人に譲るよう気をつけること。

身内や上役の人のパーティーに出席した時は、ホスト側の立場になって飲み物や独りである客に気を配るなど、ホストを補うように努める。

帰る時には必ずホストにお礼の挨拶をすること。

16-3 来客時の留意点

招待する時は招待状を出すのが原則である。パーティーの趣旨を明確にし、日時、場所、服装、同伴の可否を明記し、遅くとも10日～1週間前までに手渡すのが望ましい。

当日の料理のメニューを決め、材料は前日までに揃えておくこと。大人数の場合はケイタリングサービスを利用するのも方法である。これは、料理の仕出しは勿論、食器、ナプキン、テーブル、椅子の貸し出し、室内の装飾に加えてウェイターまで派遣してくれる出張パーティーサービスである。料理の値段に付帯サービスが含まれており、値段はレストランとほぼ同じである。飲み物は別料金であるが、グラス、氷、ウェイターサービスも含まれており、その分経済的である。手間をかけずに招待客をもてなすには最適の手段である。フィリピン料理、中華料理、日本料理と様々なバリエーションがあり、レストランやホテルでもサービス部門を持っている。複数に問い合わせることで予算や趣味に合わせて選ぶとよい。下見の際、ビュッフェやバーの位置、テーブルの数や配置についてアドバイスしてくれる。

主なケイタリングサービス業者は次の通りである。

V & S Classic Food International

所在地：110 Anonas Extention Sikatuna Villege, Quezon City

電話：921-82-27, 921-73-01

担当：Josie or Celia

料金：50名で1人前 250 ペソ（税、サービス抜き）より。

備考：ケイタリング専門。日本料理、中華料理、コンチネンタル、フィリピン料理など様々なケースに対応可能。

The Makati Skyline

所在地：Pentahouse Jaka Buld. 150 Regaspi St. Regaspi Villege, Makati

電話：893-62-26, 818-67-34

担当：Leah or Natti

料金：50名で1人前 230 ペソ（税、サービス抜き）より。

備考：ケイタリング専門。中華料理、コンチネンタル、フィリピン料理。

子供向けに、ピエロやヌイグルミに扮して司会や手品、ゲームなどのサービスを行う業者もいる。賞品やプレゼントもセットできる。

子供用のパーティー業者として次のものがある。

Twin's Balloon

所在地：26 Lead St. Fourth Estate, Sucut

電話：828-81-28

担当：Narlene

備考：机、椅子、風船、遊具、手品師

Ritz

所在地：7601 De la Rosa St. Cor. Pasong Tamo St., Makati

電話：844-51-05, 810-51-05

担当：Xiela

備考：机、椅子、風船、遊具、手品師、ケーキセット、料理

当日はテーブル、いすなどの配置、花の飾り付けなどできるものは早めに準備しておくこと。年中暑いので料理には気をつけ、特に日本からの出張者には生ものは出さないほうが無難である。飲み物や料理などはパーティー開始の30分前までに準備しておくことと楽である。

ホステスはお客全員に飲み物、食べ物がいきわたっているか、またひとりでポツンとしている客がいなか気配を配る。パーティーが終わり、後かたづけが終わったら、メイドにありがとうという感謝の気持ちを伝える。

16-4 訪問時の留意点

＜ホームパーティー＞

招待された時や招待状を受け取った時は、早めに出席、欠席の返事をする。招待状に名前がなくても、子供を含めて家族を同伴してもよい場合が多いので、確認してから人数を連絡するとよい。

趣旨を踏まえて服装を考えること。主賓でない場合は派手な服装は避けたほうが無

難である。

バースデー以外は手ぶらでも問題ないが、何か手土産を持参すると喜ばれる。

早く行くとホストを慌てさせるので、約束の時間の5分過ぎくらいがちょうどよい。外国人である邦人は非常に歓待される場合が多いが、調子に乗らずに挨拶、同伴者の紹介などをきちんと行い、料理も自分だけ取りにいたり、食べ始めたりしないで他の客にも勧めながら一緒に頂く。笑顔で楽しく過ごし、つまらなそうな態度は慎む。あまり早く退席せず、他の客の様子を見て適当な時間でお礼の挨拶をして帰る。後日、お礼の電話を忘れずに入れること。

<結婚式>

通常、結婚式は教会で行われ、レセプションと呼ばれる披露宴はレストランに移動して開かれる。結婚式だけは教会のミサの都合で時間通りに行われる。

服装はゴットファーザー、ゴットマザー（仲人）でなければ特に気をつかう必要はないが、日本人であることを考えて男性はバロンタガログまたは長袖のカッターシャツに黒っぽいスラックスが無難である。女性は白と黒以外の明るい色のドレスがよい。ただし、あまり派手なものは避けたほうがよい。

式の前は花嫁、花婿が入り口近くにいるはずなので、お祝いの言葉をかける。式が始まったら座っていればよい。最後にはグループ毎に新郎、新婦を挟んで写真をとるので呼ばれたら前にでる。

贈り物は白か銀の紙で包装し、カードにお祝いの言葉と贈り主の名前を書いて、式場または宴会場の所定のギフト置き場に置くとよい。

披露宴は大規模なものを除き、あらかじめ招待された人だけで出席する。まず落ちついて食べる時間があり、その後でプログラムが始まる。新郎、新婦の友人が司会をすることが多いが、スピーチなどはほとんどなく、主に独身の男女がおきまりのゲームをしたり、白い鳩飛ばし、歌、ケーキカット、テーブルごとの写真撮影などをするので気楽にのんびり過ごせる。出席者は退屈になるとグラスをたたいて新郎、新婦にキスをリクエストする。一緒にたたいてみるとおもしろい。

ウェイターが注文を取りにくる以外は勝手に飲み物を注文しないこと。

ゴットファーザー、ゴットマザー（仲人）に選ばれた場合は大変である。男女とも数人が選ばれるが、夫婦がそろって選ばれることはなくどちらか一方になる。男性はバロンタガログに黒のスラックス、女性はパロンドレスを着るのが一般的である。式では最前列に座り、新郎新婦の横に立って洗礼を受けたり、結婚立会人の署名をしたり、蝋燭を回したりする。式の前に教えてくれるので問題はない。

仲人はスポンサーともいわれており、贈り物は現金がよい。金額は親しさに応じて、2,000～5,000 ペソが適当である。披露宴では新郎新婦を挟んで座り、注目を浴びるのであまりリラックスできないが、スピーチを頼まれることは少ない。

仲人は他の招待客が帰ってから、もう一度お祝いと励ましの言葉をかけて帰る。

<洗礼式>

結婚式と同様に、式は教会、パーティーがレストランというのが一般的である。

服装は結婚式ほど気を使わなくてもよい。ただし、これも数人ずついるゴットファーザー、ゴットマザーに選ばれると、洗礼を受ける赤ん坊の横に立ったり、署名をし

なければならないので男性はバロンタガログがよい。宴会ではプログラムは特になく、食事を頂くだけの場合が多いが、お祝いの言葉は忘れずにかけること。

贈り物は洗札を受けた赤ちゃんに贈る。金色のリボンを結ぶとよい。

<フィエスタ>

年に一度それぞれのバランガイで、フィエスタと呼ばれるお祭りがあり、それぞれの家でご馳走を用意して多くの友人、知人を招待するのが習慣である。フィエスタに招待されたら、特に服装には気を使わず、気楽に手ぶらで家族友人同伴で出かけて、お腹いっぱいご馳走になるとよい。フィエスタに限らず、料理は少し残したほうが、お腹がいっぱいになるまで食べた証拠となり喜ばれる。お客が大勢来るのであまり長居をせず、家にご馳走を誉め、お礼を述べて帰る。

<葬式>

逝去後3日から1週間、家または教会に遺体を安置するので、その間にできるだけ早く香典を持って訪れる。特に喪服はないが、派手な色、明るい色の洋服は避け、白、黒、紺色の服がよい。

遺族に「May Deepest Condolence」とお悔やみを言ってから、ガラス張りの棺に横たわっている遺体を拝見し、故人を忍んで会話する。遺族は努めて明るく振る舞っているので、限度をわきまえば談笑してもかまわない。すぐに帰ったりせず、1時間くらいは遺族と過ごす方がよい。

所属先の幹部など、関係が深い人の親族の場合は花輪を送るのがよい。フラワーショップに頼めば、送り主名、お悔やみの言葉を添えて配達してくれる。

16-5 禁止されている言動

結婚式では白いドレスは花嫁だけのものである。特に若い女性が白いドレスで出席するのは避けること。

17. 任国官公庁

省 庁	所 在 地	電 話
Department of Foreign Affairs	DFA Bldg., 2230 Roxas Blvd., Pasay City	834-40-00
Department of Labor and Employment	DOLE Bldg., Intramuros, Manila	49-98-90
Department of Agriculture	DA Bldg., Elliptical Rd., Diliman, Quezon City	998741~65
Department of Health	San Lazaro Compound, Tayuman, Sta. Cruz, Manil	711-60-80, 711-95-02
Department of National Defense	DND Bldg., Camp Aguinaldo, Quezon City	911-6001
Department of Environment and Natural Resources	DENR Bldg., Visayas Ave., Diliman, Quezon City	99-66-26~32
Department of Public Works and Highways	Bonifacio Drive, Port Area, Manila	48-20-11
Department of Transportation and Communications	Philcomcen Bldg., Ortigas corner ADB Pasig, Metro Manila	631-86-66~85 内線 221~233
Department of Trade and Industry	4th Floor Industry & Investments Bldg., 385 Sen. Gil. J. Puyat Ave., Makati	895-3656~57
Department of Social Welfare & Development	Constitution Hills, Batasan Complex, Quezon City	931-81-01~07
Department of Tourism	DDT Bldg., T.M. Kalaw St., Rizal Park, Ermita Manila	59-90-31
Department of Justice	Padre Faura St., Ermita, Manila	599-271
Department of Finance	Central Bank 5th Ermita, Manila	573-42-45
Department of Education, Culture and Sports	University of Life Bldg., Meralco Ave., Pasig, Metro Manila	632-13-61~70
Department of the Interior and Local Government	PNCC Bldg., EDSA Corner Reliance St., Mandaluyong, Metro Manila	631-84-31
National Economic Development Authority	NEDA sa Pasig, Amber Ave., Pasig, Metro Manila	631-0945~64
Department of Budget & Management	Malacanang Compound, San Miguel, Manila	742-41-66
Department of Energy	Philippine National Petroleum Center Complex, Merritt Rd., Fort Bonifacio, Makati, Metro Manila	544-1021~35
Department of Science and Technology	Gen. Santos Ave., Bicutan Taguig, Metro Manila	837-2071~82
Presidential Commission on Good Government	6th Floor, Philcomcen Bldg., Ortigas Corner ADB Aves., Pasig, Metro Manila	631-5813
Department of Agrarian Reform	DAR Bldg., Elliptical Rd., Diliman, Quezon City	99-70-31~39

18. 在外日本関係機関など

関係機関	所在地	電話
在フィリピン日本大使館	375 Senator Gil J. Puyat Ave., Makati	895-9050 (代)
JICA フィリピン事務所	12th Floor, Pacific Star Bldg., Senator Gil J. Puyat Ave. Extension, Corner Makati Ave., Makati	893-3081
J E T R O	23rd Floor, Pacific Star Bldg., Senator Gil J. Puyat Ave. Extension, Corner Makati Ave., Makati	892-4376
O E C F	25th Floor, Pacific Star Bldg., Senator Gil J. Puyat Ave. Extension, Corner Makati Ave., Makati	810-48-26
日本輸出入銀行	4th Floor, Pacific Star Bldg., Senator Gil J. Puyat Ave. Extension, Corner Makati Ave., Makati	810-12-995~7
金属鉱業事業団 (MMA J)	19th Floor, BA-Leponts Bldg., 8747 Paseo de Roxas, Makati	817-41-06
日本商工会議所 (J C C I)	6th Floor, Jaycem Bldg., 104 Rada St., Legaspi Village, Makati	892-32-33
マニラ日本人会	6th Floor, Jaycem Bldg., 104 Rada St., Legaspi Village, Makati	815-3559 Fax:892-2624

19. 地方都市

該当情報なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などの JICA 関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家などの JICA 関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタール
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、7M71)
16. イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ
10. ルーマニア

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグワイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ

「任国情報（フィリピン）1998年版」

平成11年1月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号
電話 (03)3269-2357

(



LIBRARY
Q
2
11